

陸前高田市文化財調査報告書第14集

# 友沼Ⅲ遺跡

1990年3月

陸前高田市教育委員会

## 序

陸前高田市は、陸中海岸国立公園の南部に位置する温暖の地でありま  
す。リアス式海岸特有の入り組んだ海岸線の奥に白砂青松の高田松原を  
抱き、海、山そして川といった豊かな自然が私たちに大いなる恩恵を与  
えてくれます。

この豊かな自然環境の中で私たちの先人は、生活を営み、文化をはぐ  
くんでまいりました。市内に残る数多くの遺跡は、その1つの証しとし  
て守られ、受け継がれてきたのです。

私たちの文化の向上と進歩のために、広い関心と正しい理解を得なが  
ら先人の遺産を保護し活用することは、私たちに課せられた責務である  
と考えます。

本報告書は、個人所有の畑の整備工事に伴う友沼Ⅲ遺跡の緊急発掘調  
査の成果をまとめたものであります。

調査の結果、本遺跡は、縄文時代前期から平安時代の各時代にわたる  
遺跡であることが判明いたしました。なかでも、縄文時代前期初頭の資  
料は、気仙地方でも出土例が少なく、この時期の当地方を理解する上で  
貴重な資料であると思われます。

本報告書が広く活用され、文化財保護のための一助となれば幸いに存  
じます。

最後に、この発掘調査に当たりご理解、ご協力をいただいた地権者各  
位及び地元関係者の方々に対し、心より感謝を申し上げます。

平成2年3月

陸前高田市教育委員会  
教育長 大澤 太郎

1. 本報告書は、平成元年度に国庫及び県費補助を受けて、岩手県陸前高田市横田町字友沼に所在する友沼Ⅲ遺跡の発掘調査の成果をまとめたものである。
2. 発掘調査は、個人所有地である畑の整備工事に伴い、岩手県教育委員会文化課の調整を経て、陸前高田市教育委員会が主体となって記録保存の目的で実施した緊急発掘調査である。
3. 調査面積は、2220㎡である。野外調査は、平成元年6月19日から12月18日までの期間で実施した。
4. 調査体制は、次のとおりである。

団 長 陸前高田市教育委員会教育長 大澤太郎  
総 括 陸前高田市教育委員会社会教育課長 佐々木幸雄  
事 務 局 陸前高田市教育委員会社会教育課長補佐 村上安見  
調 査 員 陸前高田市立博物館学芸員 佐藤正彦  
陸前高田市教育委員会社会教育課主事 吉田功  
調査補助員 菅野一子、菅野キミエ、菅野シズエ、菅野春子、菅野久子、菅野マサ子、  
菅野レイ子、佐々木イツ子、佐々木静子、佐々木俊子、佐々木睦男、  
佐藤タミ子、平坂ヒデ子、山谷美代子  
整備補助員 畑山園枝
5. 調査及び整理に際しては、次の方々のご指導、ご協力をいただいた。(順不同)

陸前高田市立矢作小学校長 菅原弘太郎氏  
岩手県立広田水産高等学校教諭 遠藤勝博氏  
岩手県立博物館主任専門学芸員 熊谷常正氏
6. 土色は、『新版標準土色帖』第4版(小山正忠、竹原秀雄 1973年)による。
7. 本報告書の執筆は、吉田が担当した。
8. 本遺跡から出土した遺物と調査記録は、陸前高田市立博物館に保管している。
9. 野外調査においては、菅野悦雄氏、菅野菊之丞氏、菅野周一郎氏、佐藤和也氏をはじめとする地元横田町の方々のご協力をいただいた。

## 目次

## 本文

I はじめに	1	3 落とし穴状遺構	33
II 遺跡の位置と環境	4	4 配石	35
III 基本層序	4	5 炉跡	35
IV 遺構と遺物	8	6 ビット	35
1 竪穴住居跡	8	7 遺構外出土遺物	42
2 溝状遺構	32	V まとめ	52

## 挿図

第1図 友沼Ⅲ遺跡と周辺の遺跡	2	第17図 第5号・6号竪穴住居跡出土遺物(3)	27
第2図 友沼Ⅲ遺跡発掘調査区位置図	3	第18図 第5号・6号竪穴住居跡出土遺物(4)	28
第3図 基本層序	4	第19図 第1号溝状遺構	31
第4図 遺構配置図	5	第20図 第2号溝状遺構	31
第5図 第1号竪穴住居跡、第3号溝状遺構	7	第21図 落とし穴状遺構	34
第6図 第2号竪穴住居跡	8	第22図 配石、炉跡、ビット	36
第7図 第2号竪穴住居跡出土遺物	10	第23図 ビット(1)	38
第8図 第3号竪穴住居跡	12	第24図 ビット(2)	39
第9図 第3号竪穴住居跡出土遺物(1)	14	第25図 ビット出土遺物	40
第10図 第3号竪穴住居跡出土遺物(2)	15	第26図 その他のビット	41
第11図 第4号竪穴住居跡	18	第27図 遺構出土遺物	42
第12図 第4号竪穴住居跡出土遺物(1)	20	第28図 遺構外出土遺物(1)	44
第13図 第4号竪穴住居跡出土遺物(2)	21	第29図 遺構外出土遺物(2)	45
第14図 第5号・6号竪穴住居跡	22	第30図 遺構外出土遺物(3)	46
第15図 第5号・6号竪穴住居跡出土遺物(1)	25	第31図 遺構外出土遺物(4)	48
第16図 第5号・6号竪穴住居跡出土遺物(2)	26	第32図 遺構外出土遺物(5)	49
		第33図 遺構外出土遺物(6)	51

## 表

第1表 第1号竪穴住居跡土層一覧表	7	第3-3表 第3号竪穴住居跡出土石器一覧表	15
第2-1表 第2号竪穴住居跡土層一覧表	11	第3-4表 第3号竪穴住居跡出土鉄製品一覧表	15
第2-2表 第2号竪穴住居跡出土土器一覧表	11	第4-1表 第4号竪穴住居跡土層一覧表	19
第2-3表 第2号竪穴住居跡出土土器一覧表	11	第4-2表 第4号竪穴住居跡出土土器一覧表	21
第2-4表 第2号竪穴住居跡出土鉄製品一覧表	11	第4-3表 第4号竪穴住居跡出土石器一覧表	21
第3-1表 第3号竪穴住居跡土層一覧表	13	第4-4表 第4号竪穴住居跡出土鉄製品一覧表	21
第3-2表 第3号竪穴住居跡出土土器一覧表	15		

第5-1表	第5号・6号竪穴住居跡土層一覽表	23	第9表	炉跡土層一覽表	37
第5-2表	第5号・6号竪穴住居跡出土土器一覽表	29	第10-1表	ビット土層一覽表(1)	37
第5-3表	第5号・6号竪穴住居跡出土鉄製品一覽表	29	第10-2表	ビット土層一覽表(2)	39
第6表	第1号・第3号溝状遺構土層一覽表	32	第10-3表	ビット出土土器一覽表	39
第7表	落とし穴状遺構土層一覽表	35	第10-4表	その他のビット土層一覽表	41
第8表	配石土層一覽表	37	第11-1表	遺構出土土器一覽表	42
			第11-2表	遺構出土鉄製品一覽表	42
			第12-1表	遺構外出土土器一覽表	51
			第12-2表	遺構外出土鉄製品一覽表	51

### 写真図版

図版1	遺跡遠景，調査区全景				
図版2	第1号竪穴住居跡，埋土断面，煙道，第3号溝状遺構				ビット，埋土断面，G4-3ビット，埋土断面，G10-1ビット・G10-2ビット，埋土断面
図版3	第2号竪穴住居跡，埋土断面		図版12	C11-1ビット，埋土断面，C11-2ビット，埋土断面，E11-1ビット・E11-2ビット・E10-1ビット・E10-2ビット・E10-3ビット，E11-1ビット，埋土断面	
図版4	第3号竪穴住居跡，埋土断面，カマド，煙道		図版13	E11-2ビット，埋土断面，E10-1ビット，埋土断面，E10-2ビット，埋土断面，E10-3ビット，埋土断面	
図版5	第4号竪穴住居跡，埋土断面，カマド，煙道		図版14	E11-1ビット・E11-2ビット・E10-1ビット・E10-2ビット・E10-3ビット，D10区・D11区埋土断面，遺物出土状況，遺構外出土遺物出土状況，作業風景	
図版6	第5号・6号竪穴住居跡，第6号竪穴住居跡カマド，第6号竪穴住居跡煙道，第6号竪穴住居跡貯蔵穴状ビット		図版15	第2号・第3号竪穴住居跡出土遺物	
図版7	第1号溝状遺構，埋土断面，第2号溝状遺構，埋土断面		図版16	第4号竪穴住居跡出土遺物	
図版8	第1号落とし穴状遺構，埋土断面，第2号落とし穴状遺構，埋土断面，第3号落とし穴状遺構，埋土断面，第4号落とし穴状遺構，埋土断面		図版17	第5号・6号竪穴住居跡出土遺物	
図版9	第5号落とし穴状遺構，埋土断面，第6号落とし穴状遺構，埋土断面，第7号落とし穴状遺構，埋土断面，配石，埋土断面		図版18	第5号・6号竪穴住居跡出土遺物	
図版10	炉跡，埋土断面，D15-1ビット，埋土断面，D6-1ビット，埋土断面，G2-2ビット，埋土断面		図版19	第5号・6号竪穴住居跡出土遺物	
図版11	G3-1ビット，埋土断面，G3-2		図版20	遺構・遺構外出土遺物	
			図版21	遺構外出土遺物	
			図版22	遺構外出土遺物	
			図版23	遺構外出土遺物	
			図版24	遺構外出土遺物	

## I はじめに

本調査は、畑の整備に伴う緊急発掘調査である。調査費は、国庫及び県費補助を受けての500万円である。

昭和63年5月26日、地権者代表菅野周一郎氏により畑等の地均しを実施して水平畑としたいとして埋蔵文化財発掘の届出がなされた。これを受けて、同年8月29日、岩手県教育委員会文化課と協議を行い、試掘調査により遺構の所在等について確認することを申し合わせた。

試掘調査は、同年11月20日、21日の両日、重機により幅約3mのトレンチを遺跡内の6箇所に掘って実施された。この調査により土層が4層に大別されることを確認し、4箇所のトレンチから遺構等を検出した。検出された遺構等は、溝状遺構1基、性格不明の遺構1基、配石1基、焼土ブロック1箇所、柱穴群1箇所、ピット1基、奈良時代の住居跡1棟などであった。遺物については、大木1式期、大木10式期、土師器の土器片が出土している。

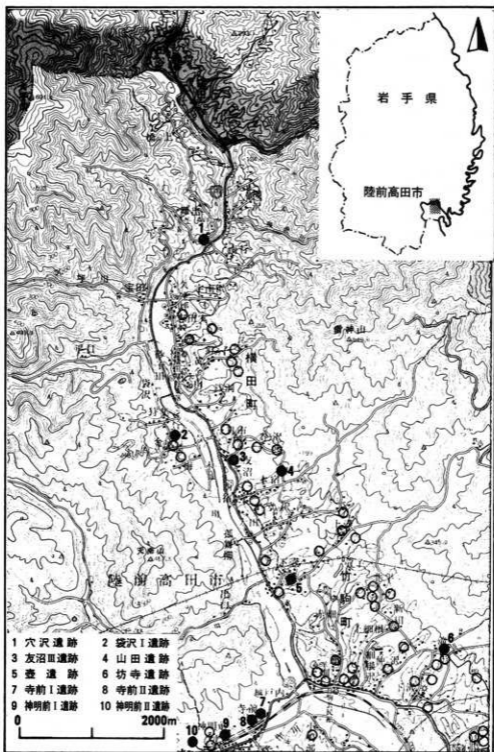
調査の結果、本遺跡は、大規模な集落跡ではないと推定されたが、未調査区域に住居跡等の分布の可能性があるとして、土木工事を行なう場合には、発掘調査面積を減少させる設計をした上で事前に本発掘調査を行なう必要があるとされた。

本遺跡の発掘調査は、平成元年6月19日から同年12月18日まで実施された。

調査区域については、道路沿いの傾斜の緩やかな区域は、土木工事の対象としない旨を土地所有者と確認したので、これを外す形で設定し、地番ごとの大調査区を設定して南側から順にローマ数字による大調査区名を付した。グリッド設定については、試掘トレンチが等高線に直交する状態で掘られたこと、住居跡の煙道が等高線に直交していたことから住居跡の基軸も同方向であろうと推定されたこと、さらに遺跡内の地形を考慮して、任意に基点を設けて等高線に對しおおむね直交する軸線を定め、調査区域内に5m四方のグリッドを設定した。等高線に直交する軸線を東西方向と仮定して算用数字で表わし、また、南北方向の軸線は、アルファベットで表わすグリッド名とした。

調査区域の一部で9月頃まで耕作が行なわれることとIV大調査区には厚さ5m程の盛り土があって土捨て場の確保が困難なことから、1回目の重機による粗掘り作業は、I・Ⅲ大調査区で6月19日から21日までの3日間行なわれた。2回目の粗掘り作業は、畑の収穫が終わり、また、Ⅲ区の調査が終了して土捨て場の確保ができたのを受けて9月25日から27日までの3日間で行なわれた。

検出された遺構の呼称は、竪穴住居跡、溝状遺構、落とし穴状遺構、配石、炉跡は区別し、他の遺構は、グリッドごとに遺構名を付した。



第1図 友沼Ⅲ遺跡と周辺の遺跡



第2図 友沼Ⅲ遺跡発掘調査区位置図



## II 遺跡の位置と環境

友沼Ⅲ遺跡は、岩手県陸前高田市横田町字友沼に所在する。

陸前高田市は、岩手県の南東部に位置し、東は大船渡市、北は気仙郡住田町、西は東磐井郡大東町、南は宮城県気仙沼市に接している。市の南東部が太平洋に面しているほかは、原台山(894.7m)、氷上山(874.7m)などの北上山系の山々が連なる。住田町上有住の清水山(1013.9m)を源とする気仙川が市内を南流し、途中、東流する矢作川と合流して広田湾に注ぎ、河口付近に三角州性の平野を形成する。市内の平坦地は、この三角州性平野が最大で、ほかには、陸けい島である広田半島の付け根、気仙川と支流により形成された谷底平野や氾濫原、さらに広田湾に注ぐ小河川により開折された平坦地などがある。

本遺跡は、気仙川東岸の氾濫原に面した幅の狭い傾斜地に立地する。遺跡の背後には、すでに削平されてしまっているが、急峻な山地が東から迫っていた。「友沼」の地名は、気仙川の氾濫原が沼地となっていたことに由来している。氾濫原と山地とに挟まれた南北に細長い傾斜地は、南北ともに西方向に開ける沢によって限られ、南端部は、かつて気仙川の土手普請の際に土取り場となったため削平され、現在は水田と畑になっている。また、遺跡のある傾斜地と山地との境付近は、壁土の採取により削平されている。遺跡の現況は、畑と草地であり、以前は桑畑として利用されてもいた。

## III 基本層序

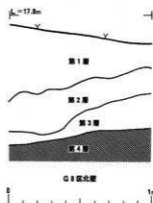
調査区域内の畑は、以前に土壌改良を受けているため、観察地点により層厚に差があるなど多少の変化が認められた。

以下、各層の要約及び模式図を示す。

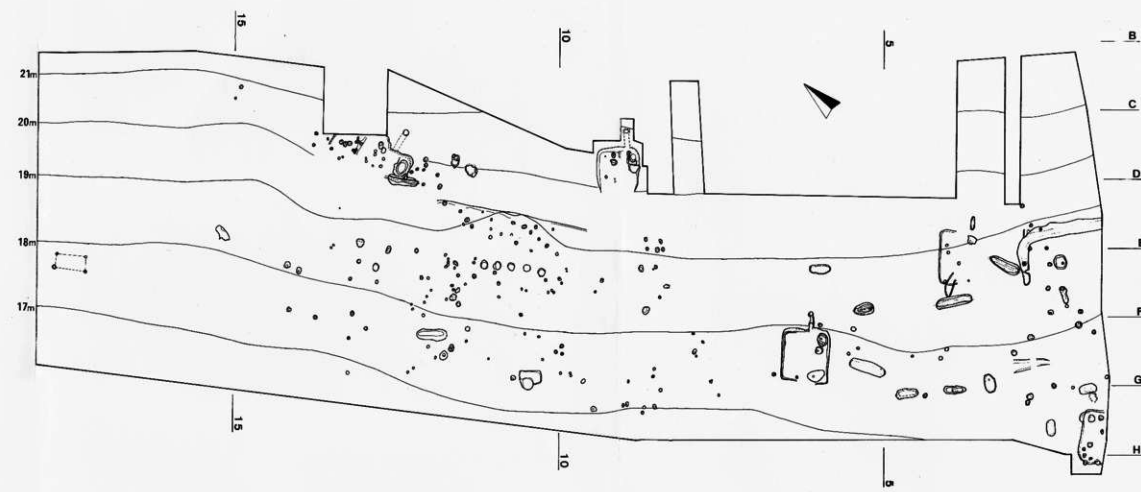
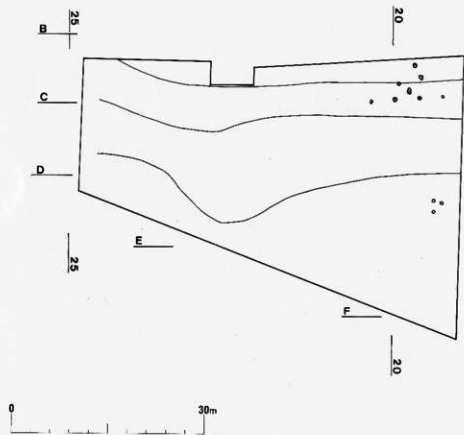
第1層 表土の耕作土である。

第2層 黒褐(7.5YR3/1)色土層。砂質シルト。焼土粒、木炭粒を含む。粘性が若干ある。ややしまる。調査区域の中程から下の方で認められ、下るにつれて層厚を増す。

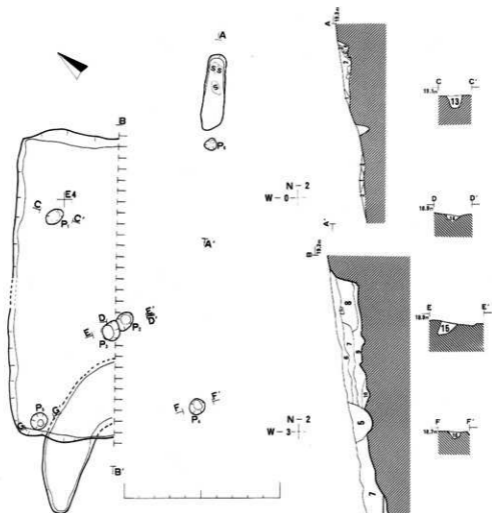
第3層 黒褐(7.5YR2/1)色土層。砂質シルト。焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性が若干ある。しまる。褐(10YR4/3)色土を粒状に含む。調査区域の下の方3分の1のところまで認められ、下るにつれ



第3図 基本層序



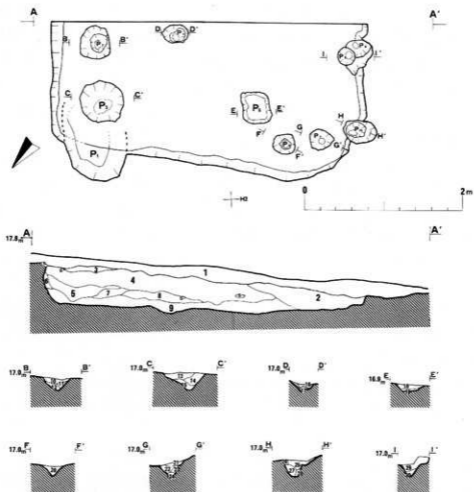
第4図 遺構配置図



第5図 第1号竪穴住居跡、第3号溝状遺構

第1表 第1号竪穴住居跡土層一覽表

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	10YR 3/4 暗褐色	焼土粒、木炭粒含む。粘性やや強い。ややしまる。	9	7.5YR 2/1 黒、色	焼土粒、木炭粒ごくわずかに含む。粘性弱い。やわらかい。
2	10YR 3/4 暗褐色	焼土粒、少量の木炭粒含む。粘性強い。やわらかい。	10	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒少量含む。粘性弱い。やわらかい。
3	10YR 3/4 暗褐色	焼土粒、木炭粒少量、土器片含む。粘性やや強い。ややしまる。	11		層No10と同じ。
4	7.5YR 3/3 暗褐色	焼土粒、木炭粒少量含む。粘性強い。ややしまる。	12		層No10と同じ。
5	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒若干含む。粘性なし。やわらかい。	13	10YR 2/2 黒褐色	粘性弱い。やわらかい。
6	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性なし。やわらかい。	14	10YR 2/2 黒褐色	粘性強い。やわらかい。
7		層No5と同じ	15	10YR 2/3 黒褐色	粘性強い。硬くしまる。
8	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒ごくわずかに含む。粘性弱い。やわらかい。	16	10YR 2/3 黒褐色	粘性なし。やわらかい。
			17		層No16と同じ。



第6図 第2号竪穴住居跡

て層厚を増す。

第4層 褐(10YR4/1)色土層。

地山である。調査区域中程から上では第1層直下で認められる。部分的に色調が褐(7.5YR4/1)色を呈する。

#### IV 遺構と遺物

##### 1 竪穴住居跡

第1号竪穴住居跡(第5図, 第1表, 図版2)

(重複関係) 第3号溝状遺構と重複関係にあり、第1号竪穴住居跡の方が新しい。

(平面形・規模・方向) 昭和63年度に実施された試掘時のトレンチにより住居跡の北の部分を残した3分の2が削平されたため全体の平面形は不明だが、残存する3分の1から正方形に近かったであろうと推定される。床面の北辺で366cmを測る。北壁の方向は、 $N-37^{\circ}-E$  ( $S-37^{\circ}-W$ ) を指す。

(壁) 第2層を壁としている。検出された壁高は、東壁で35cm±、北壁で15~44cm、西壁で15cm±を測る。

(床) 第2層下層を床面としている。部分的に凹凸はみられるものの、ほぼ平坦である。全体に地盤よりやや緩やかな傾斜を示す。固さに変化はなく、貼り床等も確認されない。

(柱穴) 床面から検出されたピットは7基で、柱穴である可能性があるのはP<sub>1</sub>のみである。(カマド) 焼土の一部を残して試掘時に削平された。煙道部底部の一部が地山を掘り込む形で残存し、高熱を受けて変色している。残存した煙道部の主軸方向は、 $N-54^{\circ}-E$  を指す。

### 第3号溝状遺構

第1号竪穴住居跡と同様に試掘トレンチの削平を受けているため全体的な確認はできなかった。溝の主軸方向は、南東-北西・東-西・北東-南西へと曲線的に方向を変えて先細りとなる平面形である。検出された最大幅は、上幅62cm、下幅56cmを測り、検出面からの深さは、最も深くて13cmで、南西端で高低差がほとんど確認できなくなる。

### 第2号竪穴住居跡 (第6・7図, 第2-1~4表, 図版3・15)

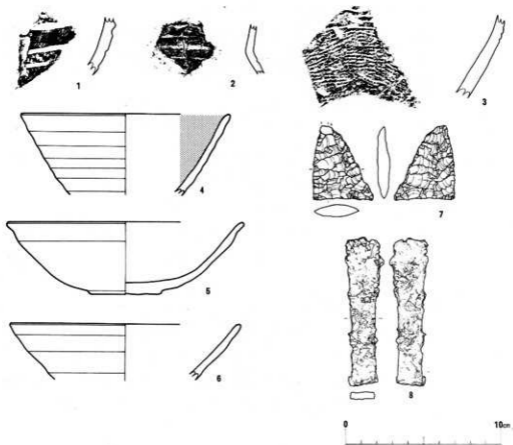
(重複関係) P<sub>1</sub>と重複関係にある。P<sub>1</sub>の方が新しいため、第2号竪穴住居跡が削除を受ける。P<sub>1</sub>からは比較的若い年齢と推定される人の歯のエナメル質部分が11個出土したことから、P<sub>1</sub>は墓坑であると考えられる。

(平面形・規模・方向) 住居跡の3分の2が調整区域外にあるために全体の平面形は不明だが、検出された平面形から、隅丸方形を呈すると考えられる。床面の北辺で378cmを測り、方向は $N-61^{\circ}-E$  ( $S-61^{\circ}-W$ ) を示す。

(壁) 地山を壁としている。検出された壁高は、東壁で52cm±・北壁で12~52cm±・西壁で12cm±である。西壁付近は、耕作による攪乱を受けている。

(床) 床面は、中央部でややくぼむが、全体的にはほぼ平坦で、おおむね水平である。保存状況は良くない。地山を床面としている。固さに変化はなく、貼床等は、確認されなかった。

(柱穴) 床面で検出された9基のピットのうち柱穴の可能性があるのは、P<sub>2</sub>のみである。(出土遺物) 1は、埋土から出土した縄文時代後期の土器片である。4条の平行沈線の間は、磨り消されている。2・3は、弥生時代の土器片で、2は、頸部付近の一部と考えられる。屈



第7図 第2号竪穴住居跡出土遺物

曲部とその上下に各1条の平行沈線が施され、さらに波形沈線も認められる。3は、坏か高坏の一部と思われる。LRの斜行縄文が施され、4条の平行沈線間は無文である。4～6は、床面から出土したロクロ成形による土師器の坏の一部である。4は、口縁部付近の破片で、内面が黒色処理されている。横位の箇所による調整が施されている。5は、内面の一部にタールの付着が認められるだけで、内外面ともに調整は認められない。底部の切り離しは、回転糸切りによる。器体の約半分が残存している。6は、口縁部付近の破片である。内面にはタールの付着が認められる。内外面ともに調整は施されていない。7は、台形状の縦型石匙の一部である。つまみ状の小突起は、欠損したものと考えられる。両面加工の刃部を3辺につくり、全体に丁寧な調整が施されている。横断面形は、凸レンズ状を呈している。床面からの出土である。8は、P<sub>1</sub>の埋土中から出土した用途不明の鉄製品である。横断面形は、長方形を呈している。

第2-1表 第2号竪穴住居跡土層一覽表

層No.	土色	備考	層No.	土色	備考
1	10YR 3/3 暗褐色	粘性弱い。しまる。	15	10YR 6/4 褐色	粘性なし。やわらかい。
2	10YR 2/3 黒褐色	粘性弱い。しまりにむらがある。	16	10YR 3/4 暗褐色	粘性なし。やわらかい。
3	10YR 3/4 暗褐色	木炭粒若干含む。粘性なし。しまる。	17	10YR 4/6 褐色	粘性なし。やややわらかい。
4	10YR 2/3 黒褐色	粘性なし。しまる	18	10YR 3/3 暗褐色	土器片出土。粘性なし。しまる。
5	10YR 3/2 黒褐色	木炭粒若干、土器片出土。粘性弱い。しまる。	19	10YR 5/8 黄褐色	粘性なし。ややしまる。
6	10YR 3/3 暗褐色	木炭粒若干、土器片出土。粘性弱い。やややわらかい。	20	10YR 5/6 黄褐色	粘性なし。ややしまる。
7	10YR 2/3 黒褐色	木炭粒を部分的に含む。土器片出土。粘性弱い。ややしまる。	21	10YR 3/4 暗褐色	粘性なし。しまる。
8	10YR 2/2 黒褐色	土器片出土。粘性弱い。ややしまる。	22		層No21と同じ
9	10YR 3/3 暗褐色	木炭粒を部分的に含む。土器片出土。粘性なし。ややしまる。	23	10YR 5/6 黄褐色	粘性なし。しまる。
10	10YR 2/2 黒褐色	木炭粒少量含む。粘性弱い。やわらかい。	24	10YR 5/8 黄褐色	粘性弱い。やわらかい。
11	10YR 8/5+3/2	粘性なし。やわらかい。	25	10YR 3/3 暗褐色	粘性なし。しまる。
12	10YR 2/2 黒褐色	粘性なし。やわらかい。	26	10YR 5/8 黄褐色	粘性なし。硬くしまる。
13	10YR 2/2 黒褐色	粘性なし。やわらかい。地山の土をブロック状に含む。	27	10YR 3/2 黒褐色	粘性なし。やわらかい。
14	10YR 3/2 黒褐色	粘性強い。やわらかい。地山の土をブロック状に含む。	28	10YR 5/6 黄褐色	粘性なし。やわらかい。
			29	10YR 3/3 暗褐色	粘性なし。ややしまる。
			30	10YR 5/8 黄褐色	粘性なし。しまる。

第2-2表 第2号竪穴住居跡出土土器一覽表

番号	器種	出土位置	測定値 (cm)		内面調整			外面調整			備考			
			口径	底径	器高	口縁部	体部上半	体部下半	底	口縁部		体部上半	体部下半	底
4	杯	床	面	13.4	—	5.2	へうしが	へうしが	へうしが	—	コクロナデ	コクロナデ	コクロナデ	
5	”	”	”	15.2	4.7	4.7	コクロナデ	コクロナデ	コクロナデ	—	”	”	”	内面に黒色帯あり。
6	”	”	”	14.8	—	3.6	”	”	”	—	”	”	”	”

第2-3表 第2号竪穴住居跡出土土器一覽表

番号	器種	出土位置	測定値			横断面形	石質	番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形
			長さ	幅	高さ						長さ	幅	高さ	
7	石皿	床	面	4.7	3.8	0.8	11.9							凸レンズ状
8	不明	床	面	9.5	2.5	0.5								長方形

## 第3号竪穴住居跡 (第8～10図, 第3-1～4表, 図版4・15)

(平面形・規模・方向) 東西軸線に沿って幅106cm～148cmの浅い攪乱を受けているため、西辺の一部を確認することはできなかったが、ほぼ正方形を呈する。北辺362cm±・東辺336cm±・南辺370cm±・西辺354cm±を測る。東西軸線は、N-58°-Eを示す。

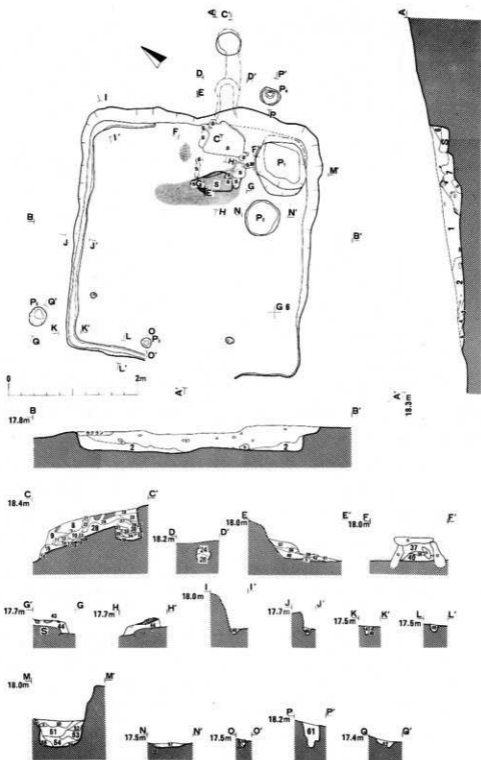
(壁) 上端に第3層を含むものの、ほとんど地山を壁としている。壁高は、東壁で55cm±を測るが、西壁は残存していない。

(床) 床は、北辺334cm±・東辺332cm±・南辺364cm±・西辺348cm±を測り、平坦で、ほぼ水平である。床面の固さに変化は認められなかった。

(柱穴) 床面からは4基のピットが検出されたが、いずれも柱穴である可能性は低い。

(カマド) 東壁の南寄りに構築されている。燃焼部、煙道部、煙出部は、いずれも良好な状態で残存している。芯材は、比較的大型の礫を袖石として左右1個ずつ据え付け、その上に偏平な天井石をのせるのを基本とする。天井石の上面は、ほぼ水平である。右側の袖石の延長として2個の大型礫を、また、左側の袖石の延長には間隔を置いて1個の偏平な礫が据え付けられる。

燃焼部は、直径52～77cmの範囲で皿状に掘り下げられ、深さは、床面から9cmを測る。底部から12°30'の傾斜で煙道部底面へと向い、39°30'の短い傾斜を経て接続する。

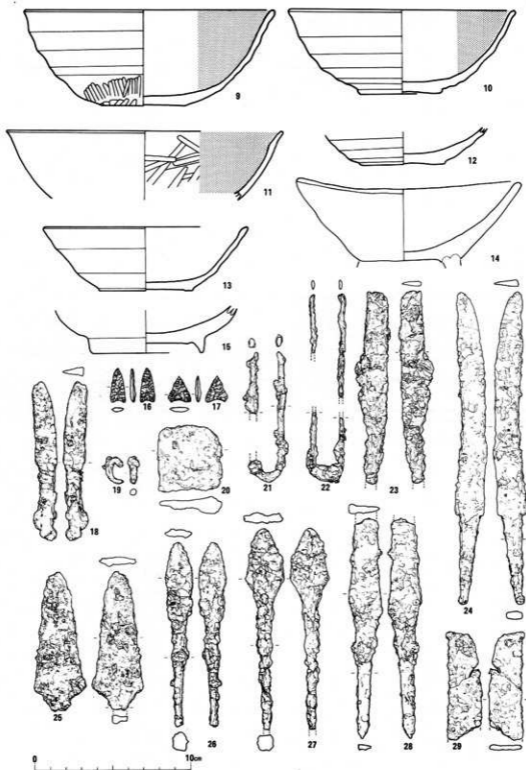


第8图 第3号双穴住居跡

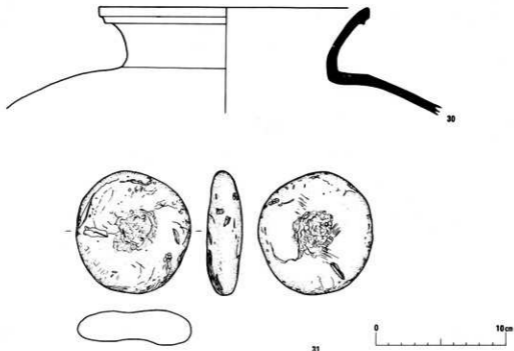


第3-1表 第3号竪穴住居跡土層一覧表

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	7.5YR 2/1 黒色	焼土粒、木炭粒を少量含む。礫、土器片多く出土。粘性弱い。やわらかい。	28	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を粒状、ブロック状に多く含む。粘性なし。ややしめる。層No.13と同じ。
2	5 YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。礫、土器片多く出土。粘性なし。ややしめる。	29		
3	10YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土を粒状に少量含む。ややしめる。	30	7.5YR 5/6 明褐色	粘性弱い。やややわらかい。
4	10YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土を粒状、ブロック状に含む。粘性なし。ややしめる。	31	7.5YR 4/3 褐色	粘性弱い。ややしめる。
5	10YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を多く含む。しめる。	32	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性弱い。やややわらかい。
6	10YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を粒状、ブロック状に含む。粘性なし。ややしめる。	33	5 YR 2/1 黒褐色	焼土粒を含む。粘性やや強い。やわらかい。
7	7.5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。焼土をブロック状に含む。礫、土器片を含む。粘性弱い。	34	5 YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。粘性やや強い。しまりはない。
8	5 YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。やわらかい。	35	5 YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性弱い。やややわらかい。
9	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性なし。ややしめる。	36	5 YR 2/1 黒褐色	地山の土をブロック状に多く含む。粘性弱い。やややわらかい。
10	5 YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性弱い。やわらかい。	37	7.5YR 3/3 暗褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。やわらかい。
11	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性なし。ややしめる。	38	7.5YR 4/6 褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。やわらかい。
12	10YR 4/6 褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。黒褐色土を多く含む。粘性なし。ややしめる。	39	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。やわらかい。
13	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性弱い。やわらかい。	40	7.5YR 3/3 暗褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。粘性強い。やわらかい。
14	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。土器片出土。粘性なし。やややわらかい。	41	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。やわらかい。
15	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性なし。ややしめる。	42	7.5YR 3/4 暗褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。やわらかい。
16	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土、木炭を小ブロック状に含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性なし。ややしめる。	43	5 YR 4/6 赤褐色	焼土層。土器片出土。粘性なし。
17	10YR 4/6 褐色	焼土を粒状、小ブロック状に含む。黒褐色土を小ブロック状に多く含む。ややしめる。	44	7.5YR 2/1 黒色	焼土、木炭を粒状、小ブロック状に多く含む。土器片出土。粘性弱い。ややしめる。
18	10YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性なし。やわらかい。	45	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒を若干含む。粘性弱い。しめる。
19	2.5YR 2/1 赤黒色	煤の層。粘性やや強い。やわらかい。	46		層No.45と同じ。
20	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土をブロック状に含む。粘性なし。やややわらかい。	47	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒を若干含む。粘性弱い。やややわらかい。
21		層No.13と同じ。	48		層No.47と同じ。
22	7.5YR 4/3 褐色	粘性弱い。しめる。	49		層No.47と同じ。
23	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性なし。やややわらかい。地山の土を粒状に含む。	50	7.5YR 3/2 黒褐色	粘性非常に強い。やわらかい。
24	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性なし。ややしめる。地山の土を小ブロック状に含む。	51	7.5YR 3/2 黒褐色	木炭粒を若干含む。粘性非常に強い。やわらかい。
25	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性なし。やわらかい。地山の土を小ブロック状に含む。	52	7.5YR 5/8 明褐色	粘性強い。しめる。
26	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性弱い。やわらかい。	53	7.5YR 3/3 暗褐色	粘性非常に強い。やわらかい。
27	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性弱い。やややわらかい。	54	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性非常に強い。やわらかい。
			55	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性非常に強い。やわらかい。
			56	7.5YR 4/3 褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性非常に強い。やわらかい。
			57		層No.54と同じ
			58	7.5YR 4/3 褐色	粘性非常に強い。やわらかい。
			59	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや弱い。ややしめる。
			60		層No.59と同じ。
			61		層No.13と同じ。
			62	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒を若干含む。粘性弱い。やわらかい。



第9图 第3号竖穴住居跡出土遺物(1)



第10図 第3号竪穴住居跡出土遺物(2)

第3-2表 第3号竪穴住居跡出土土器一覽表

番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			内面調整			外面調整			備考	
			口径	底径	器高	口縁部	体部上半	体部下半	底部	口縁部	体部上半		体部下半
9	坏	P、底部	16.2	5.3	6.1	ヘリガサ	ヘリガサ	ヘリガサ	ヘリガサ	ヘリガサ	ヘリガサ	ヘリガサ	ロク口成形。
10	"	"	14.6	5.5	5.4	"	ロクナデ	ロクナデ	ロクナデ	ロクナデ	ロクナデ	ロクナデ	目録別
11	"	埋土中	17.8	-	4.5	"	ヘリガサ	ヘリガサ	-	ヘリガサ	ヘリガサ	"	-
12	"	煙山底部	-	5.3	2.3	-	-	ロクナデ	ロクナデ	-	-	"	目録別
13	"	P、底部	13.2	6.0	5.1	ロクナデ	ロクナデ	"	"	ロクナデ	ロクナデ	"	"
14	甕形	埋土中	14.7	6.8	4.8	不明	不明	不明	不明	ナデ	ナデ	ナデ	不明 手捏ね、内底焼跡。
15	"	"	-	7.5	3.0	ヘリガサ	ヘリガサ	ヘリガサ	-	-	ロクナデ	ロクナデ	-
30	広口壺	床面ほか	22.1	-	12.5	ロクナデ	粘土類	-	-	ロクナデ	粘土類	-	-

第3-3表 第3号竪穴住居跡出土土器一覽表

番号	器種	出土位置	測定値				横断面形	石質
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
16	無縁	床面	2.1	0.9	0.3	0.4	凸レンズ	チャート
17	"	埋土中	1.6	1.4	0.2	0.4	"	黒曜石
31	凹石	埋土中	9.5	8.9	2.5	303.9	不定形	粘板岩

第3-4表 第3号竪穴住居跡出土鉄製品一覽表

番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形	番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形
			長さ	幅	厚さ					長さ	幅	厚さ	
18	刀子	埋土中	5.3	1.4	0.5	二等辺三角形	24	刀子	埋土中	20.1	1.9	0.6	二等辺三角形
19	不明	"	1.8	0.7	0.5	円形	25	鏃	"	9.0	3.3	0.5	凸レンズ状
20	"	"	4.3	4.1	0.4	不定形	26	"	"	11.9	1.7	0.5	"
21	"	床面	8.3	2.2	0.6	楕円形	27	"	"	13.0	2.5	0.4	不定形
22	"	埋土中	12.0	2.1	0.6	"	28	刀子	"	14.2	2.1	0.6	二等辺三角形
23	刀子	"	12.3	1.6	0.3	二等辺三角形	29	不明	"	6.9	2.2	0.3	楕円形

煙道部及び煙出部については、新旧の2基が検出され、ともに地山を円筒状に掘り抜く。旧設の煙道部底面は20°の傾斜で、主軸方向はN-57°-Eを示すが、煙出部付近でやや北へ軸方向を変えて煙出部の南西部へと移行する。煙道部内は、高さ16~20cm・幅18~24cm・長さ116cmを測る。ほぼ鉛直方向に掘られた煙出部は、上場の南北径37cm・東西径35cm・深さ41~47cm・煙道端との比高19cmを測り、底部からは坯の底部が出土した。

新設の煙道部底部も20°の傾斜で煙出部へ移行する。煙道部の主軸方向は、N-50°-Eを示し、内部の高さ28cm±・幅30cm±・長さ16~20cmを測る。煙出部には直径35cm±のビットが掘り込まれ、煙出部とは高低差をもたずに移行する。煙出部の底部に近い埋土中からは凹石が出土しているが、熱を受けた痕跡は認められない。

新旧の煙道部ともに天井部の崩落の跡が認められる。新設の煙道部の主軸を延長すると旧設の煙出部の中心とはほぼ合致する。

(周溝) 床面の北辺及び東辺の北寄り並びに西辺の北寄りに及ぶ1条の周溝を確認した。西辺の周溝は、攪乱を受けているため全体としては確認することができなかった。また、周溝の外辺の立ち上がりは、住居跡の壁と連続しており、区別はできなかった。下場は、北辺の周溝の外辺344cm・内辺322cm、東辺の周溝の外辺90cm・内辺86cm、西辺の周溝の外辺118cm・内辺112cmである。底部幅は、北辺の周溝で5~13cm、東辺の周溝で5~13cm、西辺の周溝で4~12cmを測る。周溝の深さは、北東隅で8cm、北西隅付近で13cm、その中間で9cmを測る。(貯蔵穴状ビット) 貯蔵穴状ビットとしては、カマドに向かって右脇、床の東隅のP<sub>1</sub>がある。上場で長軸92cm±・短軸76cm±・深さ43cm±を測り、東側及び南側の立ち上がりは、住居跡の壁とほとんど区別がつかない。底部は、平坦である。ビット内からは3個分の土器が出土した。(出土遺物) 9~11は、内面を黒色処理された土師器である。9・10は、P<sub>1</sub>底部から、11は、住居跡の埋土から出土した。9の体部下半は、丸味がやや強く、外面は、赤褐色である。底部内面には、放射状の調整が認められる。10は、内外面とも無調整である。12・13は、ロクロ成形され、内外面ともに無調整で、底部の切り離しは、回転糸切りによる坏である。硬く焼き締まっている。12は、煙出部底部から、13は、P<sub>1</sub>底部から出土した。14・15ともに埋土から出土して高坏である。14は、手捏ね成形され、厚手で、内面の黒色処理が剥落したと考えられる。脚部の剥落痕が認められる。15は、ロクロ成形され、厚手である。30は、ロクロ成形による須恵器の広口壺である。口頸部は、基部から外反し、口縁部に至ってさらに若干外反を強める。口縁部は、挽き出され、段を有するような縁帯状となる。口縁端部は、ごく弱い凸状を呈する。胴部の外面には基部から2.3~3.0cmの幅で無文帯がめぐり、斜めに交差する格子目叩き具痕が全面にある。内面には、ごく弱い平行当て具痕がある。

石器は、3点出土している。16・17ともに凹基無茎鏃である。16は、細身で、17は、幅広で

偏平。17の基部の一端は、欠損している。31は、新設煙出部の埋土から出土した凹石で、正円に近い偏平な石材を使用している。凹は、両面とも中央部に1箇所認められる。

18～29は、鉄製品である。18・23・24・28は、刀子で、23・28が、欠損する。19は、「C」字状で、横断面形は、円形を呈する。釘であろうか。20は、薄い板状を呈する。器種不明。21・22は、ともに欠損していて全体の形状を知ることはできないが、細長い「U」字状を呈していたと思われる。器種不明。25は、頭部のみであるが、26・27同様、畿と思われる。26・27に較べて大型で、26は、25・27に較べて返しが発達しない。29は、細長い板状を呈する。器種不明。なお、埋土からは1000点以上の礫、土器片、鉄製品、石器が集中的に出土している。

#### 第4号竪穴住居跡(第11～13図, 第4-1～3表, 図版5・16)

(平面形・規模・方向)全体に耕作による攪乱を受け、特に西辺は、消失してしまったが、平面形は、隅丸方形を呈していたと推定できる。残存する北辺270cm±・東辺300cm±・残存する南辺280cm±を測る。東西の軸線は、N-56°-Eを示す。

(壁)地山を壁としている。検出された壁高は、東壁で54cm±を測るが、西壁は、耕作による攪乱のために消失している。

(床)ほぼ平坦で、おおむね水平ではあるが、P<sub>1</sub>・P<sub>2</sub>の間の床面だけが部分的に若干高くなっている。床面の固さに変化は認められなかった。残存する床面の西3分の1は、耕作による攪乱を受けている。

(柱穴)床面からは6基のビットが検出されたものの、いずれも柱穴である可能性は低い。

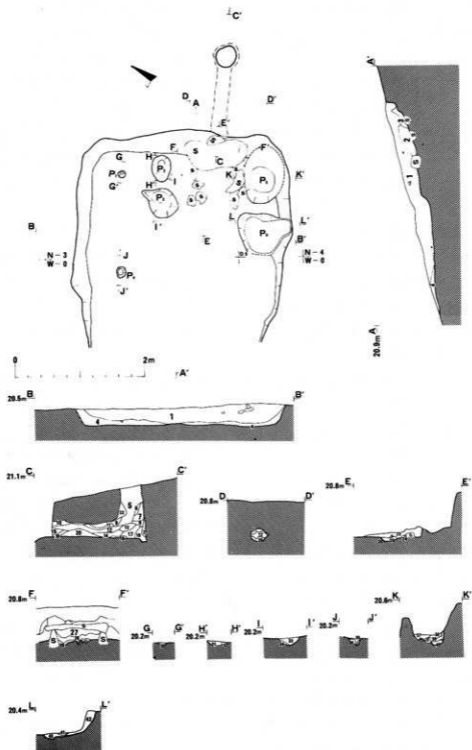
(カマド)東壁の南寄りに構築されている。燃焼部、煙道部、煙出部は、いずれも良好な状態で残存している。芯材については、偏平な袖石を左右に1個ずつ据え付け、その上に1個の偏平な大型礫を天井石として東壁に接しながら渡す構造を基本とする。天井石の上面は、ほぼ水平である。天井石と東壁の間には隙間を塞ぐ状態で煙道部直上に1個の偏平な礫が据え付けられていた。また、前述の袖石の延長として礫を据え付けていた。

燃焼部は、直径34～65cmの範囲で皿状に掘り下げられ、深さは、床面から7cmを測る。燃焼部底面は、13°30'の傾斜で登り、途中で21°に傾斜を強めて煙道部底面へと移行する。段差は、7cmを測る。

煙道部底面は、煙出部底面に向けて段差のないごく弱く下る傾斜を示す。内部は、高さ20～32cm・幅22～28cm・長さ110cmを測り、主軸方向は、N-45°-Eを示す。

煙出部は、ほぼ鉛直方向に掘られ、上場の南北径40cm・東西径45cm・深さ77～88cmを測る。煙出部底面の隅には小規模な掘り込みが認められる。

煙道部及び煙出部は、地山を円筒状に掘り抜いてつくられている。



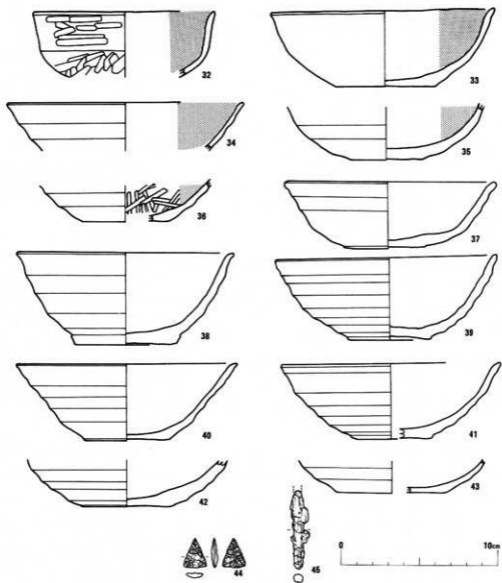
第11図 第4号竪穴住居跡

第4-1表 第4号竪穴住居跡土層一覽表

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	7.5YR 2/1 黒色	焼土粒、木炭粒、糞粒状の地山の土を含む。鉄礫山出土。粘性強い。ややわらかい。	21	7.5YR 5/6 明褐色	黒褐色が粒状に含まれる。粘性強い。ややしまる。
2	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒、粒状の地山の土を含む。粘性弱い。やわらかい。	22	7.5YR 5/6 明褐色	黒褐色がブロック状に含まれる。粘性やや強い。やややわらかい。
3	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒若干含む。粘性強い。やわらかい。	23	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒少量含む。粘性非常に強い。やわらかい。
4	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒少量含む。粘性弱い。ややしまる。	24	5YR 4/8 赤褐色	焼土の層。粘性強い。非常に硬くしまる。
5	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒若干含む。地山の土を多く含む。粘性弱い。ややしまる。	25	2.5YR 3/6 暗赤褐色	焼土の層。粘性強い。硬くしまる。
6	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒若干含む。地山の土を粒状に若干含む。粘性やや強い。しまりはない。	26	5YR 4/8 赤褐色	焼土の層。粘性強い。非常に硬くしまる。
7	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒若干含む。地山の土を多く含む。粘性やや強い。やわらかい。	27	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒少量含む。地山の土を粒状に含む。粘性強い。やややわらかい。
8	7.5YR 2/2 黒褐色	層No.7と同じ。	28	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性やや弱い。ややしまる。
9	7.5YR 2/2 黒褐色	地山の土がまだらに入り込む。粘性弱い。ややしまる。	29	10YR 4/6 褐色	高熱による変色が部分的に認められる。土器片出土。粘性強い。ややしまる。
10	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒若干含む。地山の土を粒状に若干含む。粘性なし。ややしまる。	30	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。ややしまる。
11	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒若干含む。地山の土を粒状に若干含む。粘性やや強い。やわらかい。	31	10YR 4/6 褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土を粒状に含む。粘性強い。ややしまる。
12	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒若干含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性やや強い。しまる。	32	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。ややしまる。
13	7.5YR 2/1 黒色	煤を多く含む。粒子が非常に細かく、保水性が高い。地山の土を粒状に若干含む。しまりはない。	33		層No.32と同じ。
14	7.5YR 2/2 黒褐色	煤を含む。地山の土を含む。粘性弱い。やわらかい。	34		層No.32と同じ。
15	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒を若干含む。地山の土を粒状に若干含む。粘性なし。やややわらかい。	35		層No.32と同じ。
16	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒を若干含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性なし。やややわらかい。	36	10YR 4/6 褐色	粘性強い。ややしまる。
17	7.5YR 2/1 黒色	煤の層。粒子が非常に細かく、保水性が高い。しまりはない。	37	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。土器片出土。粘性強い。やわらかい。
18	7.5YR 2/1 黒色	木炭粒若干含む。地山の土を多く含む。粘性強い。やわらかい。	38	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。やわらかい。
19	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒若干含む。地山の土を多く含む。粘性やや強い。しまりはない。	39	7.5YR 2/1 黒色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性非常に強い。やわらかい。
20	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土を多く含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性やや弱い。やわらかい。	40	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。土器片出土。粘性非常に強い。やわらかい。
			41	10YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。粘性強い。やわらかい。
			42	10YR 4/4 褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。やわらかい。
			43	10YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。やわらかい。

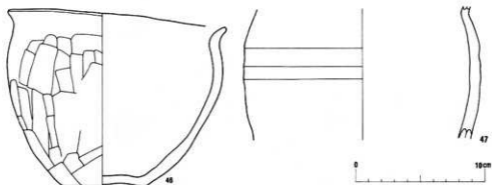
(貯蔵穴状ピット) 貯蔵穴状ピットとしては、カマドに向かって右脇、床の南東隅のP<sub>3</sub>がある。上場で長軸90cm±・短軸63cm±を測り、深さは、21cmである。東側及び南側の立ち上がりは、住居跡の壁とほとんど区別がつかない。P<sub>3</sub>からは6個分の土器が出土している。

(出土遺物) 32~36は、内面を黒色処理された土師器であるが、34は、黒色処理が剥落したものと考えられる。32は、表探。33は、P<sub>3</sub>底部から、34~36は、住居跡の埋土から出土した。35・36の底部は、回転糸切りによる。32の内面は、丁寧に磨かれ、外面の調整は、下半がケズリ、上半がナデと明確に分かれる。また、断面についても下半が、強い丸味を呈するのに対し、上半は直線的である。33の底部及び体部の内面には放射状に調整が施され、また体部上半には横位の内面調整が認められる。外面の体部下半には押圧によるごく弱い段が認められる。口縁部は、ナデ調整され、ごく弱く外反する。37・43は、ロクロ成形され、内外面ともに無調整で、



第12図 第4号竪穴住居跡出土遺物(1)





第13図 第4号竪穴住居跡出土遺物(2)

第4-2表 第4号竪穴住居跡出土土器一覽表

番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			内面調整			外面調整			備考	
			口径	底径	器高	口縁部	体部上半	体部下半	底部	口縁部	体部上半		体部下半
32	坏	表採	11.6	-	4.2	ヘラミナ	ヘラミナ	ヘラミナ	-	ヘラミナ	ヘラミナ	ヘラミナ	-
33	"	P <sub>1</sub> 底部	14.5	6.5	5.0	"	"	"	ヘラミナ	ロクロナ	ナ	オキエ	不明
34	"	埋土中	15.2	-	3.1	ロクロナ	ロクロナ	ロクロナ	-	"	ロクロナ	ロクロナ	-
35	"	"	-	4.7	4.6	-	"	"	ロクロナ	-	"	"	焼剥跡
36	"	"	-	5.6	3.6	-	"	"	ヘラミナ	-	-	"	"
37	"	P <sub>1</sub> 底部	13.7	5.3	4.3	ロクロナ	ロクロナ	ロクロナ	ロクロナ	ロクロナ	ロクロナ	ロクロナ	"
38	"	埋土中	13.8	7.0	5.9	"	"	"	"	"	"	"	"
39	"	P <sub>1</sub> 底部	14.2	5.5	5.3	"	"	"	"	"	"	"	"
40	"	"	14.2	5.6	4.9	"	"	"	"	"	"	"	"
41	"	P <sub>1</sub> 埋土中	14.2	5.2	4.9	"	"	"	"	"	"	"	"
42	"	P <sub>1</sub> 底部	12.8	5.8	3.0	-	-	"	-	-	-	"	"
43	"	埋土中	-	7.0	2.2	-	-	"	"	-	-	"	"
46	甕	P <sub>1</sub> 底部	16.9	6.4	13.7	ナ	不明	不明	不明	不明	ヘラミナ	ヘラミナ	不明
47	"	床面	-	-	10.1	-	"	"	-	-	ロクロナ	不明	-

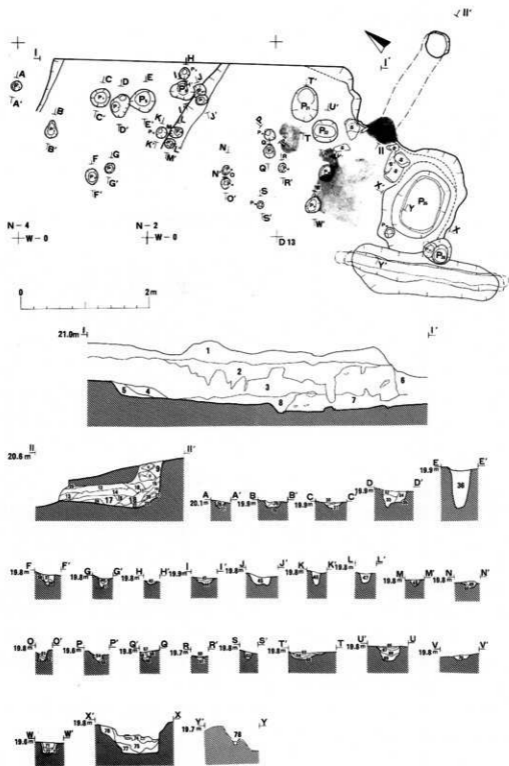
第4-3表 第4号竪穴住居跡出土土器一覽表

第4-4表 第4号竪穴住居跡出土鉄製品一覽表

番号	器種	出土位置	測定値				横断面形	石質	番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形
			長さ(m)	幅(m)	厚さ(m)	重さ(g)						長さ	幅	厚さ	
44	無銘	床面	1.9	1.5	0.4	0.6	凸レンズ状	チャート	45	不明	埋土中	5.1	0.6	0.5	ほぼ円形

底部の切り離しは、回転糸切りによる。38・43は、埋土から、41は、P<sub>1</sub>埋土、37・39・40・42は、P<sub>1</sub>底部から出土した。39・41の一部には煤の付着が認められる。33・37・38の口縁部は、ごく弱く外反する。46は、P<sub>1</sub>底部から出土した。手捏ねにより成形され、口縁部が、弱く外反する。内面の煤の付着状況から、煮焚きに使用されたと考えられる。47は、床面から出土した。ロクロ成形され、口縁部は、外反していたと考えられる。

石器は、1点のみ出土している。44は、平基無茎鐵であるが、基部は、やや丸味を帯びる。鉄製品は、45の1点のみである。棒状に残存し、長さは、5.05cmを測り、横断面形は、ほぼ円形を呈する。器種不明。



第14图 第5号·6号竖穴住居跡

第5-1表 第5号・6号竪穴住居跡土層一覧表

層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	7.5YR 2/2 黒褐色	耕作土。	39	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性強い。しる。地山の土を粒状に含む。
2	5YR 2/1 黒褐色	耕作土。	40	7.5YR 3/2 黒褐色	粘性強い。やわらかい。
3	5YR 2/1 黒褐色	土器片出土。粘性強い。ややしる。	41	7.5YR 4/6 褐色	粘性強い。しる。
4	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を粒状に少量含む。粘性強い。やわらかい。	42		層No.26と同じ。
5	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土を小ブロック状に含む。土器片出土。粘性強い。ややしる。	43	10YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を含む。粘性なし。しる。
6	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土を小ブロック状に含む。粘性強い。ややしる。	44	7.5YR 6/8 褐色	焼土粒、木炭粒を含む。粘性ややしる。
7	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土を粒状、ブロック状に多く含む。土器片出土。粘性弱い。しまりにむらがある。	45		層No.28と同じ。
8	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土をブロック状に含む。土器片出土。粘性弱い。ややしる。	46		層No.32と同じ。
9	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。粘性なし。やわらかい。	47	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性非常に強い。やわらかい。
10	7.5YR 5/6 明褐色	粘性強い。しる。	48	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒を少量含む。粘性非常に強い。やわらかい。
11	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。土器片出土。粘性強い。やわらかい。	49	7.5YR 3/2 黒褐色	粘性強い。ややしる。
12	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く多く含む。土器片出土。粘性強い。やわらかい。	50	7.5YR 5/8 明褐色	粘性強い。しる。
13	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。土器片出土。粘性やや弱い。やわらかい。	51	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を含む。地山の土を粒状に含む。粘性やや弱い。やわらかい。
14	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。土器片出土。粘性やや強い。しまりはない。	52	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を含む。地山の土を粒状に多く含む。粘性やや弱い。やわらかい。
15	5YR 3/4 暗赤褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。土器片出土。粘性やや強い。やわらかい。	53		層No.40と同じ。
16	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を非常に多く含む。土器片出土。粘性強い。やわらかい。	54	7.5YR 5/8 明褐色	粘性強い。やわらかい。
17	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を非常に多く含む。土器片出土。粘性強い。やわらかい。	55		層No.54と同じ。
18	5YR 2/1 黒褐色	層No.17以上に焼土粒、木炭粒を多く含む。土器片出土。やわらかい。	56		層No.40と同じ。
19	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。土器片出土。粘性なし。しまりはない。	57	7.5YR 3/3 暗褐色	粘性強い。やわらかい。
20	5YR 3/6 暗赤褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。土器片出土。粘性なし。やわらかい。	58		層No.32と同じ。
21	5YR 2/1 黒褐色	煤の層。焼土粒を多く含む。土器片出土。やわらかい。	59		層No.32と同じ。
22	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒を多く、木炭粒を非常に多く含む。しまりはない。	60	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性やや強い。しる。
23	黒色	煤の層。焼土粒を多く含む。炭化米出土。やわらかい。	61	7.5YR 4/6 褐色	粘性強い。しる。
24	5YR 2/1 黒褐色	焼土粒を多く、木炭粒を少量含む。やわらかい。	62		層No.32と同じ。
25	5YR 3/6 暗赤褐色	焼土層。粘性なし。非常に硬く締りしる。	63	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土、木炭を粒状、小ブロック状に多く含む。地山の土を粒状に含む。粘性なし。やわらかい。
26	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性なし。しる。	64	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土、木炭を小ブロック状に多く含む。地山の土を多く含む。土器片出土。粘性なし。やわらかい。
27	7.5YR 4/4 褐色	粘性強い。しる。	65	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土、木炭、地山の土を粒状に多く含む。土器片出土。粘性なし。やわらかい。
28	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性やや強い。しる。	66	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。地山の土を小ブロック状に含む。粘性なし。やややわらかい。
29	10YR 4/6 褐色	粘性なし。しる。	67	7.5YR 3/4 暗褐色	焼土、木炭、地山の土を粒状に多く含む。土器片出土。粘性やや弱い。やややわらかい。
30	7.5YR 3/2 黒褐色	粘性なし。しる。	68	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒を少量含む。土器片出土。粘性やや強い。やわらかい。
31		層No.29と同じ。	69	7.5YR 2/2 褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。地山の土を含む。羽口出土。粘性強い。
32	7.5YR 2/3 黒褐色	粘性強い。やわらかい。	70	7.5YR 3/4 暗褐色	焼土、木炭を粒状、小ブロック状に多く含む。土器片出土。粘性強い。ややしる。
33		層No.32と同じ。	71	7.5YR 2/3 暗褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。粘性強い。やわらかい。
34		層No.32と同じ。	72		層No.71と同じ。
35		層No.32と同じ。	73	7.5YR 3/4 暗褐色	焼土粒、木炭粒を含む。粘性強い。しる。
36	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。やわらかい。	74	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒、地山の土を多く含む。土器片を多く含む。粘性強い。やややわらかい。
37	7.5YR 2/2 黒褐色	粘性強い。ややしる。	75	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒、地山の土を多く含む。土器片を多く含む。粘性強い。やわらかい。
38	7.5YR 3/4 暗褐色	粘性強い。しる。	76	7.5YR 4/3 褐色	焼土、木炭を小ブロック状に、地山の土を粒状に多く含む。粘性強い。やわらかい。
			77	7.5YR 4/3 褐色	焼土、木炭を小ブロック状に多く含む。土器片を多く含む。粘性強い。しる。
			78	7.5YR 3/3 暗褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性なし。やわらかい。

### 第5号・6号竪穴住居跡（第14～18図、第5-1～3表、図版6・17～19）

（重複関係）第5号竪穴住居跡と第6号竪穴住居跡とは重複関係にあり、埋土の堆積状況から第5号竪穴住居跡の方が新しいと判断される。

また、第6号竪穴住居跡の南壁でP<sub>Ⅲ</sub>と、床面にも及んで第5号落とし穴状遺構と重複し、第5号落とし穴状遺構は、P<sub>Ⅲ</sub>の西縁と重複し、P<sub>Ⅲ</sub>とも重複している。切り合い関係では、P<sub>Ⅲ</sub>が最も新しく、次に第6号竪穴住居跡、そして第5号落とし穴状遺構が最も古い。

（平面形・規模・方向）耕作や土壌改良による攪乱で第6号竪穴住居跡の約3分の2は、削除され、第5号竪穴住居跡の平面形は、判然としない。東方に構築物があるために、第5号・6号竪穴住居跡の一部は、調査区域外とせざるを得なかった。このため、両住居跡の平面形及び規模を知ることはできない。ちなみに、第5号竪穴住居跡の北壁－南壁の間の距離は、検出された上場で446cmを測る。第6号竪穴住居跡の北壁の方向は、下場でN-88°-E（S-88°-W）を指し、第5号竪穴住居跡の北壁の方向は、下場でN-76°-E（S-76°-W）を示す。（壁）地山を壁としている。第6号竪穴住居跡については、北壁が122cm検出されており、最も東側での壁高は、15cmを測る。第5号竪穴住居跡については、北壁が90cm検出され、最も東側で22cmを測る。

（床）ほぼ平坦で、おおむね水平を示す。ただし、P<sub>Ⅲ</sub>の西縁に隣接する床面は、部分的に第5号落とし穴状遺構の埋土の上に堆積する状態で地山の土の層が南北71cm・幅22～32cm・厚さ5cmを測り、他の床面よりも小高い様を示す。第5号竪穴住居跡及び第6号竪穴住居跡ともに床面に固さの変化は認められないが、前述の地山の土の堆積した範囲だけは締まりがある。

（柱穴）第5号・6号竪穴住居跡の床面からは25基のピットが検出され、うち柱穴である可能性のあるのは、P<sub>Ⅰ</sub>・P<sub>Ⅱ</sub>である。

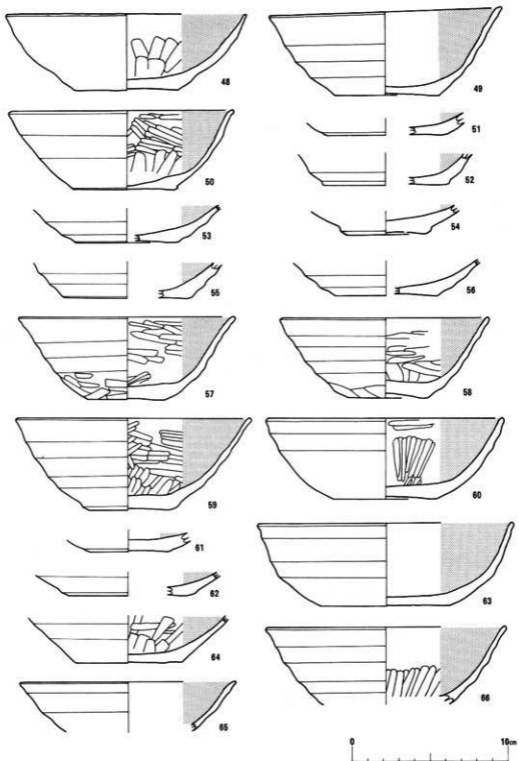
第5号竪穴住居跡の平面形を確認できなかったことにより、第5号竪穴住居跡・第6号竪穴住居跡と各ピットとの関連性については、明確にすることはできなかった。

（カマド）第6号竪穴住居跡の東壁の南寄りに構築される。燃焼部、煙道部、煙出部は、比較的良好な状態で残存している。燃焼部及び煙出部上部は、耕作土直下で検出されており、耕作及び土壌改良による攪乱を受けていた可能性が高い。

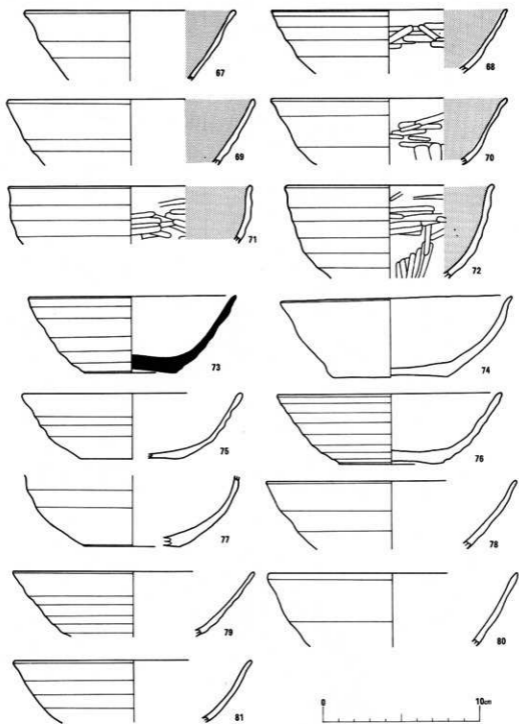
燃焼部は、直径95～43cmの範囲で皿状に掘り下げられ、深さは、床面から8cmを測る。燃焼部底部は、7°～15°の傾斜で登り、煙道部底部へと移行すると6°30'の傾斜で下って煙出部底部へと至る。芯材として柚石が左右に据え付けられているが、天井石は認められなかった。

煙道部内は、高さ23～40cm・幅26～38cm・長さ100cmを測り、燃焼部側から煙出部側へ向け高さ及び幅を増す形状となっている。主軸方向は、N-9°-Eを示す。

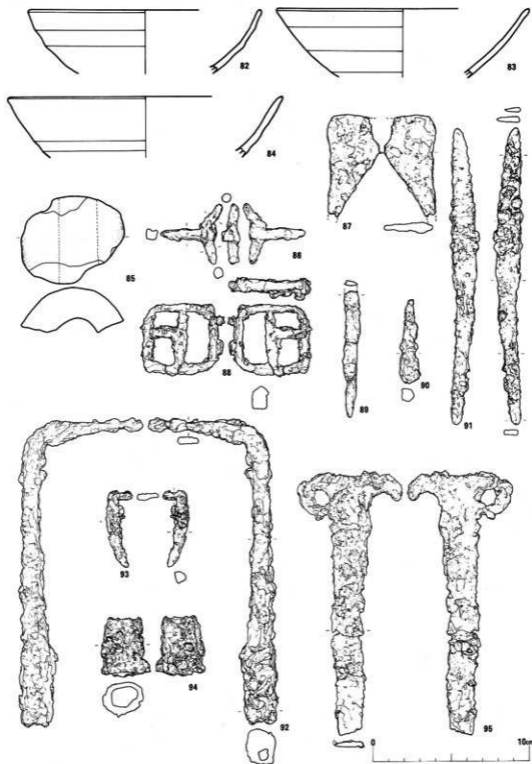
煙出部は、上場の東西径46cm・南北径40cm・深さ64cmを測り、鉛直方向から東へ11°傾いて



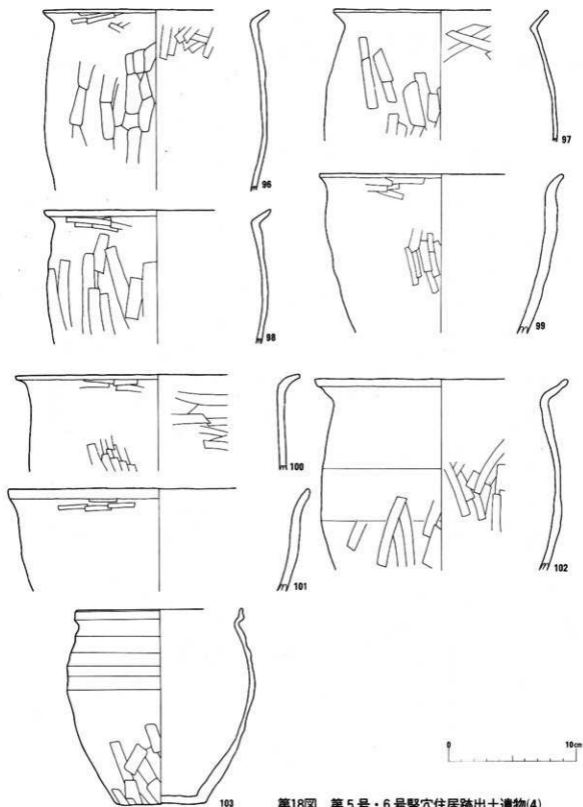
第15図 第5号・6号竪穴住居跡出土遺物(1)



第16図 第5号・6号竪穴住居跡出土遺物(2)



第17図 第5号・6号竪穴住居跡出土遺物(3)



第18图 第5号・6号壑穴住居跡出土遺物(4)



第5-2表 第5号・6号竪穴住居跡出土土器一覧表

番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			内 面 調 整			外 面 調 整			備 考		
			口径	底径	器高	口縁部	体面上半	体部下半	底 部	口縁部	体面上半		体部下半	底 部
48	坏	P <sub>10</sub> 埋土中	15.3	6.9	4.9	へらぎ	不明	不明	へらぎ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	不明	
49	"	"	15.0	6.8	5.4	不明	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	"	"	"	目録参照	
50	"	"	14.5	6.7	5.1	へらぎ	へらぎ	へらぎ	へらぎ	"	"	"	"	
51	"	"	-	7.2	1.4	-	-	-	-	-	-	-	-	
52	"	埋土中	-	8.1	2.0	-	-	"	"	-	-	-	"	
53	"	床 面	-	6.5	2.3	-	-	"	"	-	-	-	"	
54	"	P <sub>10</sub> 埋土中	-	5.8	1.8	-	-	"	"	-	-	-	"	
55	"	P <sub>10</sub> 埋土中	-	8.4	3.2	-	-	"	"	-	-	-	"	
56	"	床 面	-	6.6	2.5	-	-	不明	"	-	-	-	"	
57	"	新築地層跡	15.9	5.0	5.3	へらぎ	へらぎ	へらぎ	へらぎ	ロクロナデ	ロクロナデ	へらぎ	"	
58	"	"	13.5	5.2	5.1	"	"	"	"	"	"	"	"	
59	"	P <sub>10</sub> 埋土中	15.3	6.4	4.9	"	"	"	"	"	"	ロクロナデ	"	
60	"	埋土中	15.3	6.4	5.2	"	"	"	"	"	"	へらぎ	"	
61	"	床 面	-	5.0	1.2	-	-	"	"	-	-	-	"	
62	"	埋土中	-	7.6	1.5	-	-	不明	不明	-	-	不明	へらぎ	
63	"	P <sub>10</sub> 埋土中	16.6	8.6	5.3	不明	へらぎ	へらぎ	へらぎ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	目録参照	
64	"	"	-	7.0	5.1	-	-	"	"	-	-	"	"	
65	"	"	13.9	-	3.2	不明	へらぎ	-	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	
66	"	"	15.4	-	5.0	"	へらぎ	-	-	"	"	"	"	
67	"	"	13.6	-	4.5	"	不明	不明	不明	不明	不明	-	-	内底処理は口縁部のみ。
68	"	"	15.2	-	4.1	へらぎ	へらぎ	へらぎ	-	ロクロナデ	ロクロナデ	-	-	
69	"	"	15.9	-	4.2	"	"	-	-	"	"	-	-	内底処理は口縁部のみ。
70	"	"	15.2	-	4.3	不明	へらぎ	-	"	"	"	ロクロナデ	-	
71	"	"	15.7	-	3.6	へらぎ	"	-	-	"	"	-	-	
72	"	"	15.4	-	6.0	"	へらぎ	-	"	"	"	ロクロナデ	-	
73	"	"	13.3	6.0	4.9	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	"	"	"	目録参照	
74	"	床面遺土中	14.8	7.2	5.0	"	不明	へらぎ	へらぎ	"	へらぎ	へらぎ	へらぎ	
75	"	P <sub>10</sub> 埋土中	14.2	6.4	4.2	"	ロクロナデ	ロクロナデ	ロクロナデ	"	ロクロナデ	ロクロナデ	目録参照	
76	"	P <sub>10</sub> 底部	14.4	6.8	4.5	"	"	"	"	"	"	"	"	
77	"	"	-	6.2	4.6	-	"	"	"	-	"	"	"	
78	"	"	16.2	-	4.4	ロクロナデ	"	-	-	ロクロナデ	"	-	-	
79	"	"	15.6	-	4.2	"	へらぎ	-	"	"	"	ロクロナデ	-	
80	"	"	16.0	-	4.7	"	"	-	"	"	"	"	-	
81	"	床面遺土中	15.3	-	4.0	"	"	ロクロナデ	-	"	"	"	ロクロナデ	
82	"	埋土中	15.0	-	4.0	不明	不明	不明	-	"	"	"	"	
83	"	カマド遺土中	16.2	-	4.4	ロクロナデ	ロクロナデ	-	"	"	"	"	"	
84	"	P <sub>10</sub> 埋土中	17.7	-	4.0	"	"	"	-	"	"	"	"	
96	甕	埋土中	17.9	-	14.2	へらぎ	-	-	へらぎ	へらぎ	"	-	-	
97	"	"	17.0	-	10.3	"	"	-	"	不明	"	-	-	
98	"	P <sub>10</sub> 埋土中	17.9	-	10.5	"	不明	-	へらぎ	"	"	-	-	
99	"	"	19.3	-	12.5	不明	"	-	"	"	"	-	-	
100	"	床 面	22.4	-	7.5	へらぎ	へらぎ	-	"	"	へらぎ	-	-	
101	"	P <sub>10</sub> 埋土中	23.8	-	8.0	不明	不明	-	"	"	不明	-	-	
102	"	床面遺土中	20.0	-	15.1	ロクロナデ	へらぎ	へらぎ	-	不明	オサエ	へらぎ	-	
103	"	埋土中	12.7	7.0	15.6	"	ロクロナデ	不明	-	ロクロナデ	ロクロナデ	"	へらぎ	

第5-3表 第5号・6号竪穴住居跡出土鉄製品一覧表

番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形	番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形
			長さ	幅	厚さ					長さ	幅	厚さ	
86	不明	カマド基部	3.6	3.9	0.7	不定形、凹形	91	刀子	埋土中	19.0	1.5	0.4	等辺三角形
87	"	カマド基部	6.5	3.3	0.7	不定形	92	不明	"	19.6	2.1	1.8	長方形、刀尻部
88	鉋具	P <sub>10</sub> 底部	5.4	4.8	1.4	楕円形	93	鋸	床 面	4.9	1.3	1.5	不定形、長方形
89	刀子	床 面	8.0	1.0	0.3	等辺三角形	94	不明	"	3.9	2.5	2.3	楕円形
90	不明	埋土中	5.4	1.3	1.3	不定形	95	"	埋土中	18.7	6.7	5.0	不定形

掘られている。埋土からは礫が煙出部を半ば塞ぐような状態で検出された。

煙道部及び煙出部は、地山を円筒状に掘り抜いている。また、内部の高熱により全体が暗赤褐（5 YR 3/4）色に変色している。

（貯蔵穴状ピット）貯蔵穴状ピットとしては、カマドに向かって右脇、床の南東隅のP<sub>3</sub>がある。上場で長軸106cm±・短軸74cm±・深さ47cmを測る。底部は、平坦である。底部からほぼ垂直に立ち上がり、上半で傾斜を緩めるが、東側及び南側では第6号竪穴住居跡の壁と連続する状態となる。P<sub>3</sub>内からは、26個分の土器が出土している。

（出土遺物）48～72は、内面黒色処理された土師器の坏である。53・61は、床面から、52・57・58・60・62は、埋土から、48～51・55・59・63～66は、P<sub>3</sub>から出土した。48の内面が、自然に立ち上がるのに対し、外面は、体部下半に押圧による緩やかな段が認められる。49のみ内外面とも調整がなされていない。50・57～60・64の内面の体部下半及び底部には放射状の調整が施され、特に59は、明確に確認できる。また、66・70・72についても同様の調整がなされていたと思われる。

73は、須恵器の坏で、完形品である。P<sub>3</sub>の埋土から出土した。

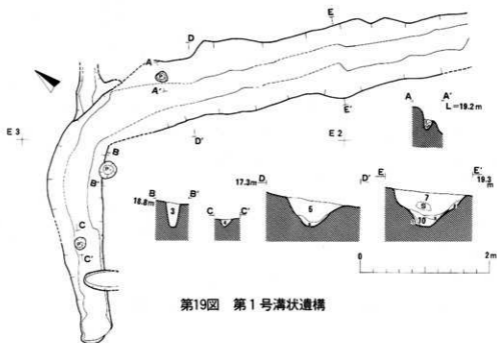
82は、埋土から、83は、カマド燃焼部の焼土中から、74・81は、床面から、76～80・84は、P<sub>3</sub>埋土から出土した土師器の坏である。74の体部下半の外面には、押圧による弱い段が認められる。口縁部は、短く外反する。75～81・83・84は、ロクロ成形で内外面とも無調整である。

96～103は、甕である。100・101は、床面から、98・99・101は、P<sub>3</sub>埋土から、96・97・103は、埋土から出土した。96～102は、下半を欠く。102の口縁部と103の上半にロクロ成形痕が認められる。101は、内面が黒色処理され、96～98・103の内面には煤の付着が認められ、103については、煤の付着状態から煮焚きに使われていたと考えられる。96～98・102・103は、薄手で、96～98・102の口縁部は、屈曲するように外反し、96・98の口縁部は、弱く被打つ。103の口縁部は、短く外反してから短く内傾し、さらに、ごく短い外傾して口唇部に至る。器形は、結果的に屈曲部がくびれたようになり、体部が弱い丸味を帯びる。99～101の口縁部は、緩やかに外反し、体部は、下半に向けて丸味を帯びないか、あるいは、徐々に狭まる。

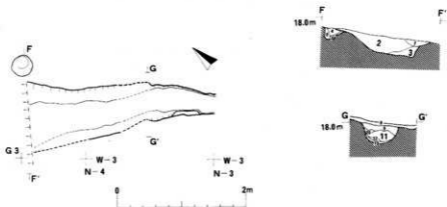
85は、P<sub>3</sub>の埋土から出土した羽口の一部で、長さ5.6cm・幅6.6cm・厚さ2.1cmを測る。色調は、内面が橙色、外面が褐灰色を帯びている。

86～95は、鉄製品である。86は、横断面形が円形で、「く」の字状に屈曲する部分と横断面形が正方形に近い形を呈する真直な部分とからなり、三叉を呈する。器種不明。87は、薄い板状を呈する。欠損する。器種不明。88は、鉄具である。89は、刀子の茎と思われる。90は、全体形がほぼ円錐形を呈する。器種は不明。91は、刀子である。92は、基部に柄等を差し込むためのソケットがつくられている。横断面形が正方形を呈する茎部を経て、やや鈍角に屈曲をす

る。屈曲部から尖頭部にかけては偏平につくられ、横断面形は、長方形を呈する。器種は不明である。93は、釘状鉄製品で、平面形がほぼ正方形を呈する偏平部を有し、弱く湾曲する。94は、筒状を呈する。器種は不明である。95も器種は不明である。細長い板状で、2箇所て屈曲する。両端の幅は、2.6cmと1.5cmを測り、幅の広い方の端部の両側は、偏平な環状につくられ、幅は、6.7cmを測る。また、同端部には厚さ0.3~0.45cm・直径2.7cm程の環状の貼り付けが施されたらしく、片面にはほぼ半分、他面にはごくわずかに残存している。



第19図 第1号溝状遺構



第20図 第2号溝状遺構

第6表第1号 第2号溝状遺構土層一覧表

第1号溝状遺構			第2号溝状遺構		
層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	7.5YR 2/2 黒褐色	地山の土をブロック状に若干含む。粘性やや強い。やわらかい。	1	10YR 3/3 暗褐色	粘性なし。ややしめる。
2	7.5YR 2/2 黒褐色	地山の土を多く含む。粘性やや強い。やわらかい。	2	10YR 2/3 黒褐色	粘性なし。ややしめる。
3	7.5YR 3/2 黒褐色	粘性強い。しめる	3	10YR 3/3 暗褐色	粘性弱い。しめる。
4		層No1と同じ。	4	10YR 3/2 黒褐色	粘性なし。ややしめる。
5	10YR 2/2 黒褐色	粘性なし。しめる。	5	10YR 2/3 黒褐色	粘性強い。やわらかい。
6	10YR 2/3 黒褐色	地山の土を小ブロック状に若干含む。粘性なし。しめる。	6	10YR 3/2 黒褐色	粘性なし。やわらかい。
7	10YR 2/3 黒褐色	粘性なし。ややしめる。	7	10YR 4/6 褐色	粘性やや強い。やわらかい。
8	10YR 3/2 黒褐色	粘性なし。ややしめる。	8	10YR 2/3 黒褐色	粘性なし。しめる。
9	10YR 3/2 黒褐色	粘性弱い。焼土粒若干含む。粘性弱い。	9	10YR 2/2 黒褐色	粘性なし。しめる。
10	10YR 3/2 黒褐色	粘性やや強い。やわらかい。	10	10YR 2/3 黒褐色	粘性なし。やわらかい。
11	10YR 2/3 黒褐色	粘性なし。しめる。	11	10YR 2/1 黒色	粘性弱い。やややわらかい。
			12	10YR 3/2 黒褐色	粘性なし。しめる。
			13	10YR 4/6 褐色	粘性弱い。しめる。

また、煙出部からは炭化した米などが、底部の第23層を中心として出土した。

## 2 溝状遺構 (第19・27図, 第6・11-2表, 図版7・20)

### 第1号溝状遺構

(平面形・主軸方向) 検出された平面形は、南東方向に向かって「L」字状を呈する。また、溝外縁の屈曲部付近では小規模な溝状遺構を検出した。

D1・D2区における主軸方向は、N-24°-E (S-24°-W) にあり、E2区ではN-41°-E (S-41°-W) を示す。また、小規模な溝状遺構の主軸方向は、N-53°-E (S-53°-W) を示す。

溝の横断面形は、おおむね逆台形を呈する。

(規模) 南東-北西の軸長は、溝外縁で634cm・溝内縁で533cm、北東-南西の軸長は、溝外縁で302cmを測る。溝の上幅は、南東-北西溝で84~114cm・北東-南西溝で最大幅86cmを測り、南西端は、急激に幅を狭める。底幅は、南東-北西溝で23~35cm・北東-南西溝で最大幅46cmを測る。深さは、南東-北西溝で41~54cm・北東-南西溝で23cmを測るが、南西端では、徐々に浅くなる。

屈曲部から北東方向へ伸びる小規模な溝については、上幅28~39cmを測るが、北東端は、途中で確認ができなくなる。底幅は、18~25cmを測る。

(併設施設) 溝内及び溝にかかる状態で3基の小ピットが検出されてはいるが、溝状遺構と直接的に關係のある遺構か否かは判然としない。

(出土遺物)

112の釘状鉄製品が1点出土した。長さは、8.35cmを測り、横断面は、ほぼ正方形を呈する。

### 第2号溝状遺構

(平面形・主軸方向) 検出された平面形は、北西に広く、南東に狭いが、北西端は、試掘トレ

ンチにより削平され、南東端は、徐々に確認ができなくなるため、全体を把握することはできなかった。主軸方向は、 $N-45^{\circ}-W$  ( $S-45^{\circ}-E$ ) を示す。

(規模) 軸長は、北東側の溝外縁で292cm・溝内縁で291cm、南西側の溝外縁で296cm・溝内縁で288cmを測る。溝の上幅は、47~109cm、底幅は、45~68cmを測る。深さは、29cm±である。

### 3 落とし穴状遺構 (第21図, 第7表, 図版8・9)

#### 第1号落とし穴状遺構

開口部の平面形は、北にやや広く、南にやや狭いおおむね楕円形を呈し、長軸233cm・短軸47cmを測る。軸方向は、 $N-31^{\circ}-W$  ( $S-31^{\circ}-E$ ) を示す。底面は、長軸274cm・短軸18cmを測る。深さは、73cmである。長軸方向の断面形は、フラスコ状を呈する。

#### 第2号落とし穴状遺構

開口部の平面形は、北に狭く、南に広い楕円形を呈する。長軸254cm、短軸83cmを測り、底面は、長軸277cm・短軸32cmを測る。深さは、89cm。長軸方向は、 $N-14^{\circ}-W$  ( $S-14^{\circ}-E$ ) を示す。長軸方向の断面形は、フラスコ状を呈する。

#### 第3号落とし穴状遺構

開口部の平面形は、細長の楕円形を呈し、長軸280cm・短軸72cmを測り、長軸方向は、 $N-52^{\circ}-W$  ( $S-52^{\circ}-E$ ) を示す。底面は、長軸330cm・短軸28cmを測り、長軸方向は、 $N-44^{\circ}-W$  ( $S-44^{\circ}-E$ ) を示す。深さは、68~104cmである。長軸方向の断面形は、フラスコ状を呈する。

#### 第4号落とし穴状遺構

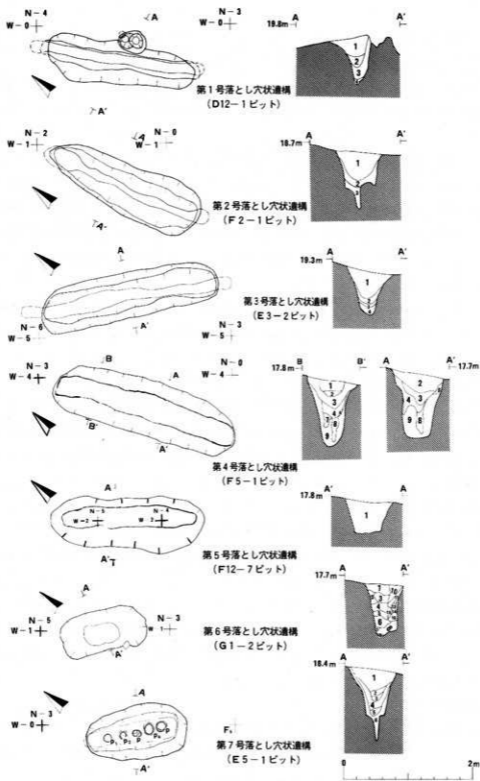
開口部の平面形は、細長の楕円形を呈し、長軸294cm・短軸87cmを測る。長軸方向は、 $N-22^{\circ}-W$  ( $S-22^{\circ}-E$ ) を示す。底面は、長軸302cm・短軸40cm・深さ102cmを測り、長軸方向の断面形は、フラスコ状を呈する。

#### 第5号落とし穴状遺構

開口部の平面形は、おおむね楕円形を呈し、長軸240cm・短軸90cmを測る。長軸方向は、 $N-39^{\circ}-W$  ( $S-39^{\circ}-E$ ) を示す。底面は、長軸210cm・短軸33cmを測る。深さは、56cm。長軸方向の断面形は、逆台形を呈する。

#### 第6号落とし穴状遺構

開口部の平面形は、小判形を呈し、長軸133cm・短軸63cmを測る。長軸方向は、 $N-53^{\circ}-W$  ( $S-53^{\circ}-E$ ) を示す。底面は、長軸54cm・短軸31cmを測る。深さは、80cmである。長軸方向の断面形は、逆台形を呈する。炉跡と南縁を接する。



第21図 落とし穴状遺構

第7表 落とし穴状遺構土層一覧表

層No.	土色	備考	層No.	土色	備考
第1号 落とし穴状遺構 (D12-1ピット)			第5号 落とし穴状遺構 (F12-7ピット)		
1	7.5YR 3/3暗褐色	木炭粒を少量含む。粘性強い。しまる。	1	7.5YR 3/2黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性非常に強い。やややわらかい。
2	7.5YR 3/4暗褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性非常に強い。しまる。	第6号 落とし穴状遺構 (G1-2ピット)		
3	7.5YR 3/4暗褐色	粘性非常に強い。しまる。	1	10YR 2/2黒褐色	焼土粒を若干含む。粘性弱い。やわらかい。
4	7.5YR 3/3暗褐色	粘性非常に強い。ややしまる。	2	10YR 3/2黒褐色	地の土を小ブロック状に含む。粘性弱い。やわらかい。
第2号 落とし穴状遺構 (F2-1ピット)			3	10YR 3/2黒褐色	粘性弱い。やわらかい。
1	7.5YR 2/2黒褐色	焼土粒、木炭粒を含む。土層出土。地山の土を粒状に若干含む。粘性強い。しまる。	4	10YR 3/3暗褐色	粘性強い。やわらかい。
2	7.5YR 3/2黒褐色	焼土粒、木炭粒を含む。地山の土を粒状、小ブロック状に含む。粘性強い。しまる。	5	10YR 2/2黒褐色	粘性強い。やわらかい。
3	7.5YR 2/2黒褐色	焼土粒、木炭粒を含む。地山の土を粒状、小ブロック状に含む。粘性やや強い。しまる。	6	10YR 2/3黒褐色	地山の土を小ブロック状に含む。粘性強い。やわらかい。
第3号 落とし穴状遺構 (E3-2ピット)			7	10YR 3/3暗褐色	地山の土を多く含む。粘性強い。非常にやわらかい。
1	7.5YR 2/2黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしまる。	8	10YR 2/2黒褐色	粘性強い。非常にやわらかい。
2	7.5YR 2/2黒褐色	層No.3と同じ。	9	10YR 3/4暗褐色	粘性強い。やわらかい。
3	7.5YR 3/2黒褐色	木炭粒を含む。地山の土を粒状、小ブロック状に多く含む。粘性やや強い。しまる。	10	10YR 3/2黒褐色	地山の土を小ブロック状に含む。粘性なし。ややしまる。
4	10YR 2/3黒褐色	地山の土を粒状に多く含む。粘性弱い。しまる。	11	10YR 5/8黄褐色	黒褐色土を含む。粘性なし。ややしまる。
第4号 落とし穴状遺構 (F5-1ピット)			12	10YR 3/2黒褐色	粘性なし。ややしまる。
1	10YR 4/6褐色	粘性強い。硬くしまる。	13	10YR 2/3黒褐色	粘性なし。やわらかい。
2	10YR 3/3暗褐色	焼土粒を若干含む。土器片出土。粘性強い。やややわらかい。	14	10YR 3/1黒褐色	地山の土を多く含む。粘性弱い。ややしまる。
3	10YR 3/3暗褐色	粘性非常に強い。しまる。	15		
4	10YR 2/3黒褐色	木炭粒を少量含む。粘性強い。しまる。	16	10YR 6/8明褐色	層No.14と同じ。
5	10YR 3/3暗褐色	粘性強い。やややわらかい。	第7号 落とし穴状遺構 (E5-1ピット)		
6	10YR 2/3黒褐色	地山の土を含む。粘性強い。しまる。	1	7.5YR 3/2黒褐色	木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしまる。層No.1と同じ。
7		層No.6と同じ。	2		層No.1と同じ。
8		層No.6と同じ。	3	7.5YR 3/2黒褐色	地山の土を含む。木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしまる。
9		層No.1と同じ。	4		粘性強い。ややしまる。
			5	7.5YR 2/3暗褐色	粘性強い。ややしまる。
			6	10YR 4/6褐色	粘性なし。しまる。

第7号落とし穴状遺構

開口部の平面形は、小判形を呈し、長軸159cm・短軸86cmを測る。長軸方向は、N-50° - W (S-50° - E)を示す。また、底面は、長軸147cm・短軸35cm・深さ72cmを測る。長軸方向の断面形は、フラスコ状を呈する。底面の長軸に沿う状態で5基の小ピットが検出された。

4 配石 (第22図, 第8・11-1表, 図版9・20)

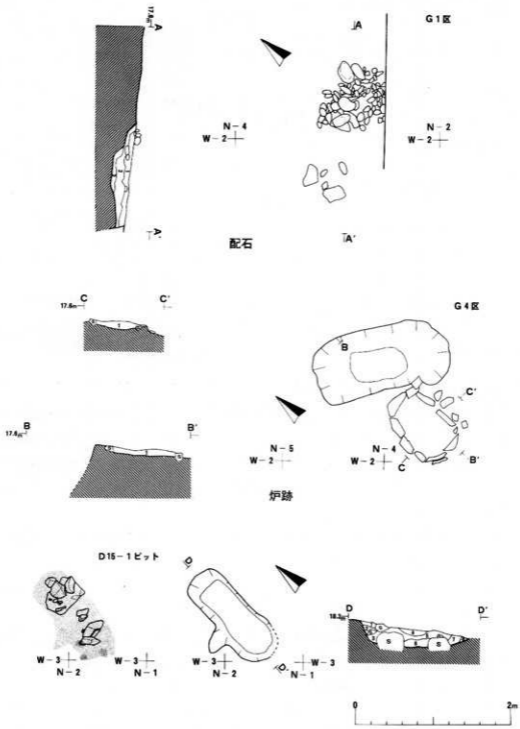
検出された配石は、南北68cm・東西80cm、の範囲にほとんどが集中するが、南方は、調査区域外に及ぶため全体の状況は把握することはできない。使われていた石は、多くが長径10cm以下の川原石である。

5 伊跡 (第22図, 第9表, 図版10)

平面形は、ほぼ長方形を呈する石組炉である。長軸76cm・短軸50cmを測る。長軸方向は、N-10° - E (S-10° - W)を示す。

6 ピット (第23~27図, 第10-1~4・11-2表, 図版10~14・20)

D15-1ピット



第22図 配石、炉跡、ピット



第8表 配石土層一覽表

層No.	土色	備考
1	10YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性なし。ややしめる。
2	10YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性弱い。ややしめる。
3	10YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。ややしめる。

第9表 炉跡土層一覽表

層No.	土色	備考
1	10YR 3/3 暗褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。ややしめる。

第10-1表 ビット土層一覽表

層No.	土色	備考
1	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土、木炭を少量含む。粘性強い。やわらかい。
2	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土、木炭を少量含む。粘性強い。ややしめる。
3	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土、木炭粒を少量含む。地山の土を含む。粘性強い。やわらかい。
4	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土、木炭を少量含む。暗褐色土を含む。粘性強い。しめる。
5	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土をブロック状に含む。木炭を多く含む。粘性強い。やわらかい。
6	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土を含む。下部に木炭をブロック状に含む。粘性は非常に強い。やわらかい。
7	7.5YR 3/4 褐色	焼土粒を含む。木炭を多く含む。粘性は非常に強い。しめる。
8	7.5YR 3/4 褐色	焼土、木炭を少量含む。粘性強い。しめる。

D6-1ビット

層No.	土色	備考
1	7.5YR 2/2 黒褐色	木炭粒を若干含む。地山の土を小ブロック状に含む。粘性弱い。やわらかい。

G2-2ビット		
1	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや強い。ややしめる。
2	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや強い。ややしめる。
3	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしめる。

G3-1ビット		
1	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を小ブロック状に含む。粘性弱い。やややわらかい。

G3-2ビット		
1	10YR 4/3 暗褐色	地山の土をブロック状に少量含む。粘性なし。しめる。

G4-2ビット		
1	10YR 2/3 黒褐色	地山の土を少量含む。粘性強い。やわらかい。
2	10YR 2/3 黒褐色	地山の土を少量含む。粘性強い。ややしめる。
3	10YR 2/3 黒褐色	粘性弱い。やわらかい。

G10-1ビット		
1	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性弱い。ややしめる。
2	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を多く含む。粘性弱い。ややしめる。

G10-2ビット		
3	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を多く含む。粘性弱い。ややしめる。
4	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。地山の土を多く含む。粘性弱い。ややしめる。

平面形は、ほぼ楕円形を呈するが、西縁の中央に、西へ27cm伸びる掘り込みが検出された。南縁は、試掘トレンチによる削平を受けている。残存する長軸143cm・短軸59cm・深さ23cmを測る。長軸方向は、N-7°-E (S-7°-W) を示す。底面の北寄りには長軸50cm・短軸35cmの礫、同じく南寄りには長軸33cm・短軸16cmの礫が、その長軸をビットの長軸に直交するように据えられていた。

## D6-1ビット

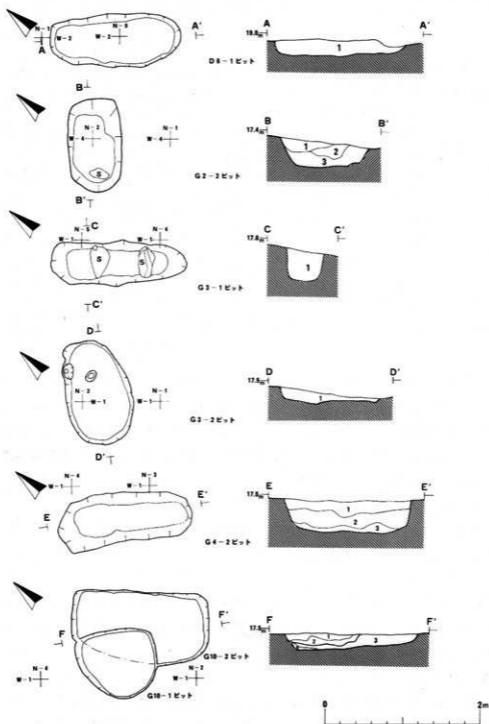
平面形は、細長い楕円形を呈する。長軸170cm・短軸79cm・深さ20cmを測り、長軸方向は、N-14°-E (S-14°-W) を示す。

## G2-2ビット

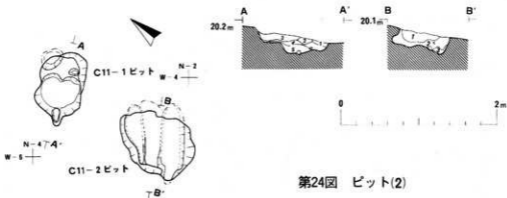
平面形は、楕円形を呈する。長軸106cm・短軸68cm・深さ33cmを測り、長軸方向は、N-50°-E (S-50°-W) を示す。底面の南西隅には、長軸26cm・短軸12cmの礫が、その長軸をビットの長軸と直交する状態で出土した。

## G3-1ビット

平面形は、細長い楕円形を呈する。南側の上部は、試掘トレンチによる削平を受けている。長軸176cm・短軸58cm・深さ39cmを測り、長軸方向は、N-41°-E (S-41°-W) を示す。底面の北寄りには、長軸39cm・短軸25cmの礫、同じく南寄りには、長軸39cm・短軸21cmの礫が、



第23図 ピット(1)



第24図 ビット(2)

第10-2表 ビット土層一覽表

C11-1ビット				C11-2ビット			
層No.	土 色	備 考	層No.	土 色	備 考		
1	10YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。羽口出上。粘性強い。	1	7.5YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。鉄滓出上。粘性ごく弱い。		
2	10YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性ごく弱い。やわらかい。	2	7.5YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。地山の土を粒状に含む。土器片、羽口出上。粘性なし。ややしまる。		
3	7.5YR 2/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性なし。しまる。	3	10YR 4/6 褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。黒褐色土を多く含む。粘性ごく弱い。しまる。		
4	7.5YR 5/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性なし。ややしまる。					
5	7.5YR 2/3 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。土器片、羽口出上。粘性強い。やわらかい。					

第10-3表 ビット出土土器一覽表

番号	器種	出土位置	内 面 測 定			外 面 測 定			備 考				
			測定値 (cm)	口径	底径	器高	口縁部	体部上平		体部下平	底 部		
104	杯	①-16:15	16.2	6.0	5.2	コクロナデ	コクロナデ	コクロナデ	コクロナデ	コクロナデ	コクロナデ	コクロナデ	不明

その長軸をビットの長軸と直交させるように据えられていた。

### G3-2ビット

試掘トレンチにより上部は削平されたが、残存する平面形は、北東にやや狭く、南西にやや広い楕円形を呈し、長軸135cm・短軸84cm・深さ15cmを測る。長軸方向は、N-33° - E (S-33° - W) を示す。底部は、ほぼ平坦で、2基の小ビットが検出されたが、併存関係は不明である。

### G4-2ビット

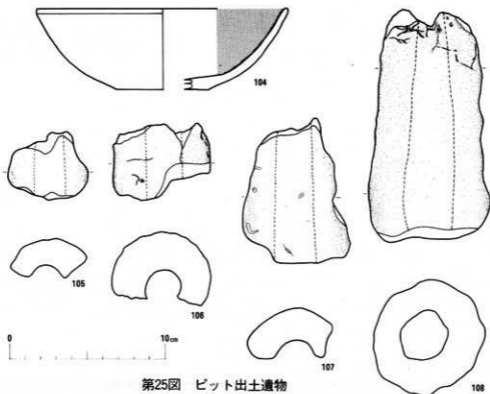
平面形は、細長い楕円形を呈する。長軸175cm・短軸66cm・深さ39cmを測り、長軸方向は、N-43° - W (S-43° - E) を示す。

### G10-2ビット

平面形は、ほぼ長方形を呈するが、南西縁がふくらむ形状であったと推定され、長軸178cm・短軸96cm・深さ22cmを測り、長軸方向は、N-39° - W (S-39° - E) を示す。西縁において南北径101cm・東西径91cm・深さ20cmを測るG10-1ビットと重複する。新旧関係については、G10-1ビットの方が新しいと判断される。

### C11-1ビット

平面形は、不定形で長軸98cm・短軸58cm・深さ24cmを測る。底面の中央には14cmを測る段差



第25図 ビット出土遺物

がある。若干高くなっている北東部の底面には、浅い掘り込みが認められる。また、南西部には、4 cmの段差をもつ小規模な底部が検出された。

(出土遺物) 107・108は、埋土中から出土した羽口の一部である。107は、長さ9.3cm・幅6.9cm・厚さ2.1cmを測る。内面は、橙色、外面は、橙色～灰白色を帯びる。

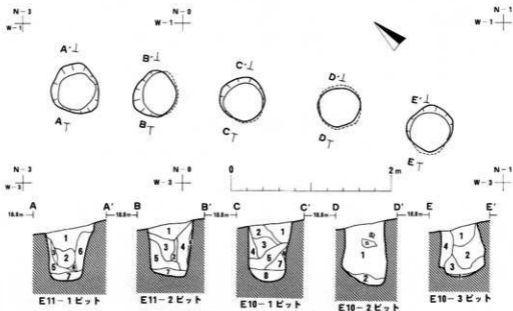
108は、長さ14.9cm・幅7.9cm・厚さ2.4cmを測る。色調は、内面が橙色、外面が橙色～灰色である。

#### C11-2ビット

平面形は、不定形である。底面で、長軸104cm・短軸76cm・深さ22cmを測る。底面には、北西-南東方向に3～4条のごく浅い掘り込みの走る形状が認められるが、明確に区分けのできる状態ではなかった。南東側の掘り込みの北東部及び南西部には、浅い掘り込みが認められる。

(出土遺物) 104は、埋土から出土したロクロ成形による土師器の坏である。内面が黒色処理されたほかは、内外面ともに調整は施されていない。

105・106は、埋土から出土した羽口の一部である。105は、長さ4.3cm・幅5.2cm・厚さ2.0cmである。色調は、内面が橙色、外面が灰白色～褐灰色を帯びる。106は、長さ4.8cm・幅6.2cm・厚さ2.5cmを測る。色調は、内面が橙色、外面がにぶい黄橙色～褐灰色である。



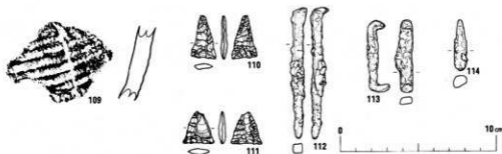
第26図 その他のピット

第10-4表 その他のピット土層一覧表

E11-1ピット			E10-1ピット		
層No	土色	備考	層No	土色	備考
1	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや弱い。しまる。地山の土を粒状に含む。	1	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒若干、木炭を小ブロック状に多く含む。粘性弱い。ややしまる。
2	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒若干、木炭を小ブロック状に含む。粘性弱い。やわらかい。	2	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性ごく弱い。ややしまる。地山の土を粒状に多く含む。
3	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性弱い。しまる。地山の土を多く含む。	3	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしまる。地山の土を粒状に若干含む。
4	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや強い。ややしまる。	4	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしまる。
5	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしまる。	5	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしまる。
6	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。しまる。地山の土を粒状、小ブロック状に多く含む。	6	7.5YR 5/6 明褐色	粘性強い。ややしまる。
7		粘土層。	7	7.5YR 5/6 明褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。やわらかい。
E11-2ピット			E10-2ピット		
1	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性ごく弱い。しまる。	1	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を少量含む。粘性強い。ややしまる。地山の土を粒状、小ブロック状に少量含む。
2	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を多く含む。粘性強い。やわらかい。地山の土を粒状に含む。	2		粘土層
3	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや弱い。やわらかい。地山の土を多く含む。	E10-3ピット		
4	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。しまる。地山の土を多く含む。	1	7.5YR 3/2 黒褐色	粘性ごく弱い。ややしまる。地山の土を小ブロック状に含む。
5	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや弱い。しまる。	2	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや強い。ややしまる。
6	7.5YR 5/6 明褐色	粘土層	3	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性やや強い。やややわらかい。地山の土を粒状に含む。
			4	7.5YR 3/2 黒褐色	焼土粒、木炭粒を若干含む。粘性強い。ややしまる。地山の土を粒状、ブロック状に含む。
			5		粘土層

その他のピット

E11-1ピット・E11-2ピット・E10-1ピット・E10-2ピットの4基は、N-36° - W (S-36° - E) の軸線上に、そしてE10-3ピットが、軸線からやや西へずれる状態で、計5基のピットが、ほぼ等間隔で1列に並ぶ。



第27図 遺構出土遺物

第11-1表 遺構出土石器一覧表

番号	器種	出土位置	測定値				横断面形	石質	番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)						長さ	幅	厚さ	
110	無銘	G1ピット	2.7	1.6	0.4	1.0	不定形	細粒砂岩	112	釘	東1号溝	8.3	0.9	0.7	ほぼ正方形
111	〃	配石埋土中	2.0	2.0	0.4	1.3	〃	細粒砂岩	113	不明	D 10区	4.5	0.9	0.7	ほぼ楕円形
									114	〃	E11-1ピット	3.3	0.8	0.6	ほぼ円形

第11-2表 遺構出土鉄製品一覧表

E11-1ピットは、上場径60~66cm・下場径44~50cm・深さ64cmを測る。埋土から鉄製品(114)が出土した。E11-2ピットは、上場径52~58cm・下場径44~56cm・深さ68cmを測る。E10-1ピットは、上場径46~56cm・下場径48~50cm・深さ72cmを測る。E10-2ピットは、上場径50~54cm・下場径50~54cm・深さ80cmを測る。埋土中からは、30cmと22cmの礫が重なるように出土した。E10-3ピットは、上場径53~60cm・下場径47~53cm・深さ64cmを測る。

各ピットの底部には、にぶい黄褐色の粘土層があり、E11-1ピットで11cm、E11-2ピットで10cm、E10-1ピットで14cm、E10-2ピットで11cm、E10-3ピットで2cmの厚さを測る。粘土層中には少量の鉄が含まれていたが、腐食が著しく、詳細は確認できなかった。

既述のピットのほかに159基のピットを検出したが、紙面の都合上割愛した。

## 7 遺構外出土遺物

### 縄文式土器 (第28~31図, 図版20~22)

#### ループ文

115~121の7点の土器片は、ループ文が山形に展開されている資料で、胴部の破片のみと思われる。RL原体を使用し、2列単位のループ文が山形に施文される。119・120では、2列単位の山形ループ文が2帯平行して確認できる。また、116~120にはRL原体による横位のループ文が施されており、116~118で1列、119で5列、120で3列の横位ループ文が認められる。山形ループ文と山形ループ文の間、山形ループ文と横位ループ文の間は磨り消しにより無文となっている。焼成は、不良。胎土は、繊維及び粗砂を含む。色調は、外面が117でにぶい黄褐色である以外は暗赤褐色~にぶい褐色、内面が121で灰黄褐色である以外はにぶい黄褐色であ

る。116・118・119・120の外面に煤の付着が認められる。器厚は0.9～1.1cmを測る。120は外反し、117は弱い外反を示し、118・116ではごく弱い外反が認められる。

122～129は、ループ文が横位に施された資料で、122・129は胴部、123～128は口縁部の土器片である。

122・129では、R Lの原体によるループ文が、122で4列、129で2列認められる。焼成は、不良。胎土に繊維及び粗砂を含む。色調は、外面が明褐色～暗褐色、内面がにぶい黄褐色である。122の外面には煤が付着している。器厚は、122で1.0～1.1cm、129で0.9～1.0cm。ともに弱い外反をしめす。

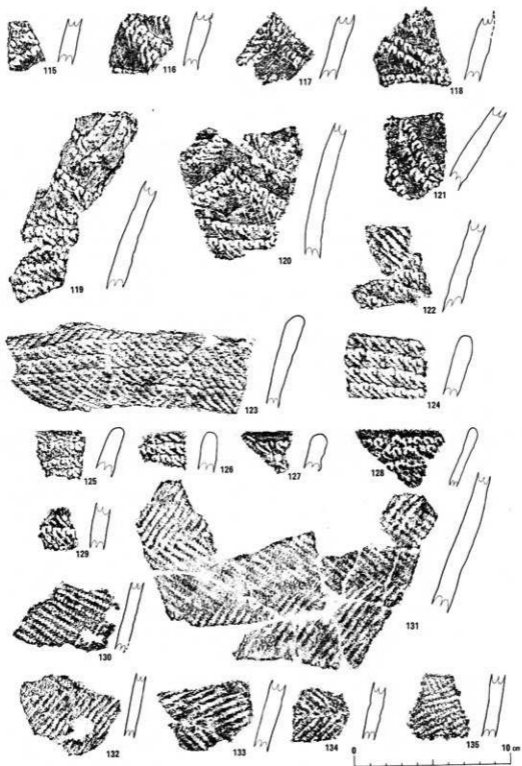
口縁部の破片については、R Lの原体によるループ文が、126・127で2列、124・125で3列、123・128で4列認められ、123の最下列のループ文からは斜行縄文が伸びている。胎土の剥落の著しい128を除いては、最上列のループ文と口唇部との間の口縁部上端に斜行縄文が施され、123～126では、R Lの原体が横位に、また123だけはL Rの原体が横位に使用されている。口縁部の形状は、123に山形の隆起があるほかはすべて平縁である。口唇部は、127で「内削ぎ」的な面取りが認められるほかは丸味を帯び、ナデが認められる程度である。焼成は、不良。胎土に繊維及び粗砂を含む。色調は、124・126・127の外面が灰褐色、内面が浅黄褐色、128が内外面ともに黄褐色、123の外面が褐灰色、内面がにぶい褐色、125の外面がにぶい赤褐色、内面が赤褐色である。124・126の外面には煤の付着が認められる。器厚は、薄手の128で0.5～0.6cm、厚手の126で1.0～1.1cmを測る。123・124・125は、弱い外反を示す。

#### 羽状縄文

胴部だけの破片であるため、器形全体の特徴は捉えられない。施文にはR LとL Rの原体を交互に横位回転させてきた羽状縄文及びR LとL Rの原体を結束し、横位回転させてきた羽状縄文(139・149)がある。胎土にはいずれも繊維、石英粒、粗砂が含まれ、140・146には金雲母も認められる。全体に焼成は不良である。色調については、外面は橙色、にぶい赤褐色、褐色が多く、内面はにぶい橙色、にぶい褐色が多い。131・136・140・143～145・147の外表面には炭化した付着物が認められる。131・136・140・146・147の内面には、粗雑ではあるが、篋等による横への調整の痕跡が見られる。器厚は、薄手の132で0.5～0.8cm、厚手の147で1.1～1.2cmを測る。

#### 斜行縄文

口縁は平縁で口唇部は丸い(156・162・166)。167は、底部の破片である。底面にはR Lの原体を回転させて施文したと思われる縄文が認められる。胴部破片の施文はL R及びR L原体による。ただし、156のみ結束のあるL R原体により施文されている。胎土には石英粒、粗砂が含まれ、142・166以外には繊維が含まれる。焼成は、142・157・163が不良であるほかは普通

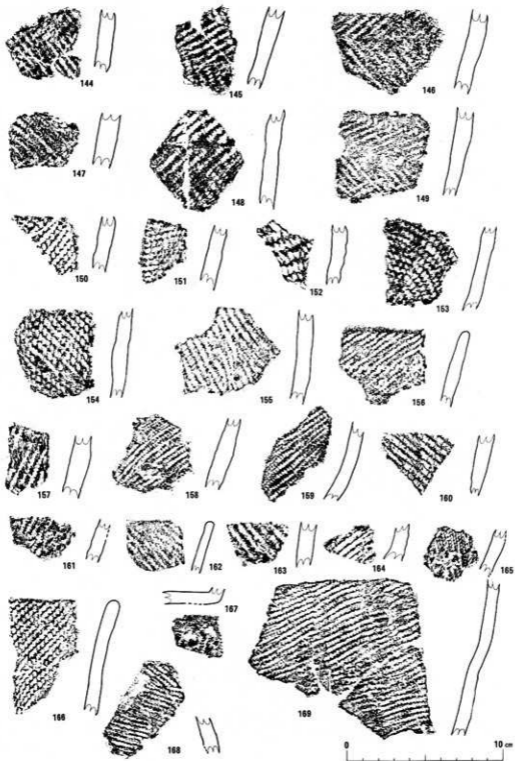


第28図 遺構外出土遺物(1)





第29図 遺構外出土遺物(2)



第30図 遺構外出土遺物 (3)

である。色調については、内外面ともに橙色・にぶい橙色・にぶい褐色が多く、166のみ内面の一部及び外面が赤褐色を呈する。169の外面及び168の内面には炭化した付着物が認められる。141・142・155・160・169の内面には篋等による横への調整の痕跡が見られる。器厚は、薄手の162で0.5～0.6cm、厚手の155で0.7～1.1cmを測る。これらのうち157・163については、土器片の様子から判断して、「羽状縄文」含まれる可能性が考えられる。

斜行縄文を沈線で区画し、磨り消しを行なった土器

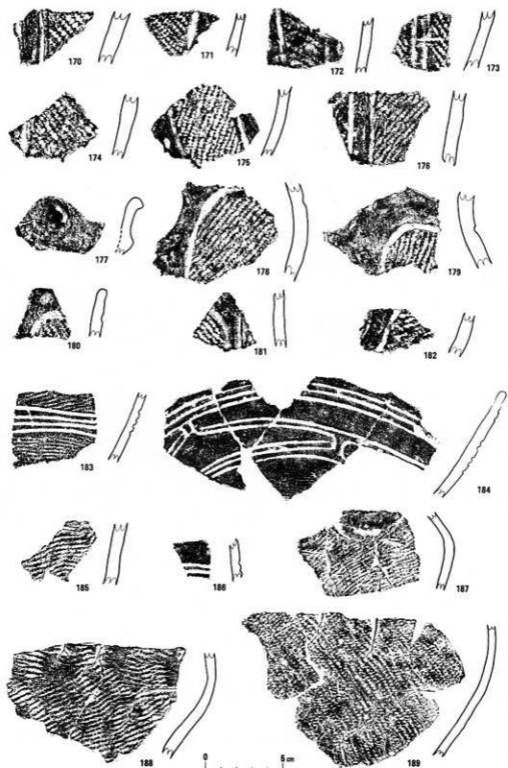
破片のみであるため、全体の器形は捉えられない。口縁部の破片は、3点(178・180・181)出土している。178は、山形突起部の外面が円形の窪みで占められる。180は、山形突起部の基部と思われ、外反を示す。181は、平縁で、ごく弱い外反を示す。施文は、LR(170～174・181・182)、RL(175・176・183)、RLR(179・180)の原体をいずれも縦位回転させてできた斜行縄文を幅の広い沈線で区画し、その外側を磨り消している。178についても円形の窪みの下に同様の沈線の一部が認められる。胎土には粗砂が含まれ、180には金雲母も含まれる。焼成は、176が不良、175・179・180が良好である。色調については、内外面ともに橙色、にぶい橙色が多い。175・176・179・180の内面には篋等による横への調整の痕跡が認められ、179・183については、炭化した付着物も見られる。器厚は、薄手の171で0.6～0.7cm、厚手の180で0.7～1.0cmを測る。

#### 弥生式土器(第31・32図, 図版23)

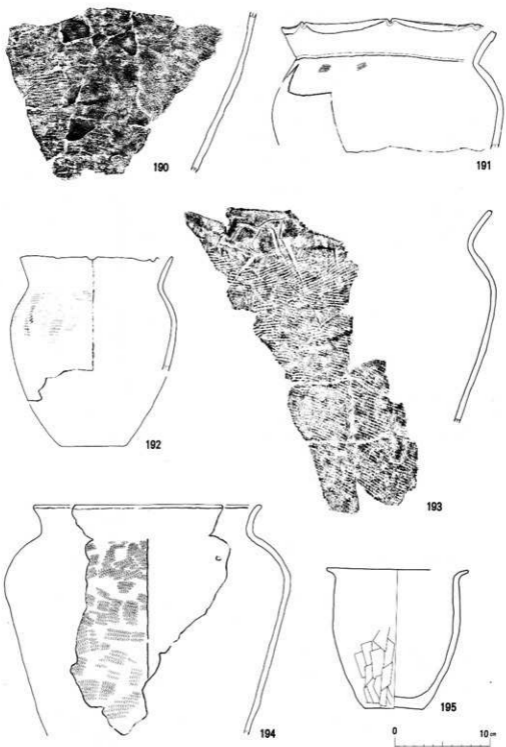
184は、小破片であるため、全体の器形を捉えることはできない。外面には4条の平行沈線を挟んでLR原体の横位及び斜位回転による斜行及び横走する縄文が施される。4条の平行沈線の外側の1条は、隣沈線との間隔を徐々に広げているのが窺える。胎土は精良で、細かな砂を含み、焼成は良好である。色調は、外面がにぶい黄橙色～にぶい黄褐色、内面が灰褐色を帯びる。器厚は、0.5～0.6を測る。

185は、高坏あるいは浅鉢の破片と思われる。口縁部は、波状を呈し、波頂部に刻み目は認められない。外面の上半には沈線による変形工字文、下半にはLR原体の横位及び斜位回転による斜行及び横走する縄文が施される。口縁部内面には1条の沈線が繞る。胎土は、精良で、金雲母と細かな砂を含む。焼成は、良好である。内外面ともに磨きによる丁寧な調整がなされている。色調は、外面が赤褐色～暗赤褐色、内面が明赤褐色を帯びる。器厚は、最大で0.6cmを測る。

186は、小破片であるため、全体の器形を捉えることはできない。外面にはLR原体の横位回転による斜行縄文が施され、沈線を隔てて磨り消される。胎土は粗砂を含む。焼成は不良である。色調は、外面が明赤褐色～極暗赤褐色、内面が明赤褐色を帯びる。器厚は、0.6～0.8cm



第31図 遺構外出土遺物 (4)



第32図 遺構外出土遺物 (5)

を測る。

187は、小破片であるため、全体の器形を捉えることはできない。外面には2条の平行沈線が認められるが、破片は、等間隔を置いたもう1本の平行沈線と無文部を隔てた別の沈線とで限られる。胎土は、精良で、細かな砂を含む。焼成は比較的良好。色調は、外面がにぶい褐色、内面がにぶい黄褐色を帯びる。器厚は、0.5~0.7を測る。

188~190は、甕あるいは壺の肩部の破片と思われる。

188の外面にはLR原体の横位及び斜位回転による斜行及び横走する縄文が施され、内面は、篋等による調整を受けている。胎土には金雲母及び細かな砂が含まれる。焼成は、不良。色調は、内外面ともに明赤褐色を帯び、煤の付着が認められる。器厚は、0.5~0.7cmを測る。

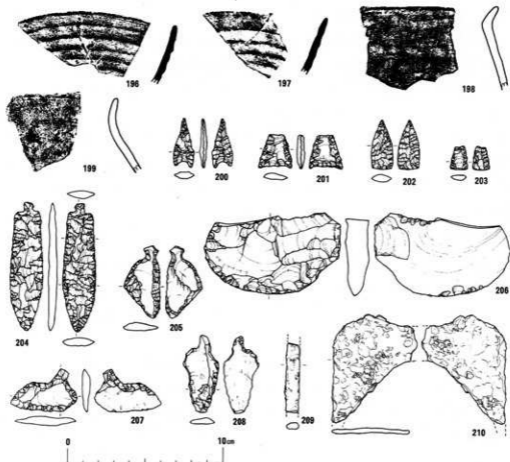
189も外面にLR原体の横位及び斜位回転による斜行及び横走する縄文が施される。胎土は、金雲母及び粗砂を含む。焼成は、良好である。色調は、外面が明赤褐色~暗赤褐色、内面が褐色を帯びる。外面には煤、炭化物の付着が認められる。器厚は、0.5~0.8cmを測る。

190の外面にはLR原体の縦位回転による斜行縄文が施され、内面には篋等による調整の痕跡が認められる。胎土には金雲母及び粗砂が含まれる。焼成は、良好である。色調は、内外面ともに黒褐色を帯び、ほぼ一面に煤、炭化物が付着している。器厚は、0.5~0.6cmを測る。

191は、胴部の一部であるが、器形は捉えられない。施文は、RL原体の横位及び斜位回転による斜行及び横走する縄文による。胎土には粗砂と金雲母が含まれる。色調は、外面が赤褐色~暗赤褐色、内面が明赤褐色~にぶい赤褐色を帯び、内外面ともに部分的に煤、炭化物が付着している。器厚は、0.6~0.8cmを測る。

192~195は、甕の一部である。192は、上半のみの破片である。頸部の基部は、「く」の字状に屈曲し、1条の沈線が巡る。頸部は、無文である。口縁部は、緩やかな波状を呈し、6つあったと思われる波頂部は、「U」字状の小さな凹部を有する。口縁部の外面は、波状口縁に合わせて帯状に肥厚し、口唇部には1条の沈線が施される。肩部から胴部にかけてはLR原体の縦位及び斜位回転による斜行及び横走する縄文が施され、胎土には粗砂と金雲母が含まれる。色調は、外面が褐色~にぶい褐色、内面が褐色~明褐色を帯び、外面には、煤、炭化物の付着が認められる。器厚は、0.4~0.7cmを測る。

193の頸部は外反し、内外面ともに撫でにより調整されて無文となっている。基部から肩部にかけての外面には1cmの幅でナデによる無文帯が巡る。口縁部の形状は、特に整えられてはいないが、5ないし4箇所あったと思われる。「U」字状の凹部の際で若干の波状を呈する。肩部から胴部上半にかけての外面には、LR原体の横位及び斜位回転による斜行及び横走する縄文が施され、肩部の外面の一部にはRL原体の斜位回転による縦走する縄文も認められる。胴部下半については、部分的な差はあるものの、ほとんど無文である。胎土には粗砂と金雲母



第33図 遺構外出土遺物(6)

第12-1表 遺構外出土石器一覧表

番号	器種	出土位置	測定値				横断面形	石質	番号	器種	出土位置	測定値				横断面形	石質
			長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)						長さ(cm)	幅(cm)	厚さ(cm)	重さ(g)		
200	無銘	F 2区	3.1	1.3	0.4	1.2	不定形	珪岩?	205	短棒	C 1区	4.6	2.3	0.6	4.4	不定形	石英岩?
201	"	E 4区	2.1	2.1	0.4	2.0	"	チャート	206	棒器	B 3区	8.7	5.1	1.7	70.6	"	チャート
202	"	B 3区	3.2	1.4	0.5	1.8	凸レンズ状	泥岩?	207	石匙	E 10区	4.2	2.8	0.6	5.2	"	玄武岩
203	"	攪乱層中	1.5	1.1	0.3	0.6	不定形	チャート	208	"	攪乱層中	4.9	2.1	0.4	4.3	"	安山岩
204	石匙	C 2区	8.2	2.1	0.5	10.2	ほぼレンズ状	チャート									

第12-2表 遺構外出土鉄製品一覧表

番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形	番号	器種	出土位置	測定値 (cm)			横断面形
			長さ	幅	厚さ					長さ	幅	厚さ	
209	不明	攪乱層中	4.5	1.0	0.4	ほぼ楕円形	210	不明	攪乱層中	7.0	5.4	0.4	不定形

が含まれる。色調は、外面が明黄褐色～にぶい褐色、内面がにぶい褐色～黒褐色を帯び、内外ともに煤、炭化物が付着している。口縁部には細かな破損が認められる。器厚は、0.3～0.5cmを測る。肩部及び胴部の内面には輪積み痕がはっきりと見られる。

194の頸部は外反し、外面は、ナデによる調整を受けて無文となっている。口縁部は、平縁

である。肩部の外面にはLR原体の横位回転による斜行縄文が施される。胴部外面については、LR原体の縦位回転による斜行縄文が施され、部分的にはLR原体の斜位回転による横走する縄文が施される。胎土は粗砂を含み、色調は、外面が浅黄橙色～明赤褐色、内面が褐灰色～ぶい褐色を帯び、胴部上半の内外面には煤、炭化物が付着している。肩部の内面には輪積り痕外面認められる。器厚は、0.4～0.7cmを測る。

195の頸部は外反し、無文である。口縁部は、平縁で、口唇部には浅い沈線が施されている。肩部外面にはLR原体の横位回転による斜行縄文及びLR原体の斜位回転による横走する縄文が施される。胴部外面にはLR原体の縦位回転による斜行縄文及びLR原体の斜位回転による横走する縄文が施される。胎土には粗砂と金雲母が含まれる。色調は、外面が灰白色～褐灰色、内面が明褐灰色～褐灰色を帯びる。煤、炭化物は、頸部基部付近を除いた外面に付着している。頸部以外の内面は胎土の剥落が著しいが、窪等による横への調整の痕跡が認められる。器厚は、0.4～0.7cmを測る。191～194については、最大径が胴部上半の肩部にある。

#### 土師器（第33図、図版23）

196は、ロクロ不使用の甕である。口縁部は、短く、ほぼ直角に外反する。体部外面及び底面は窪削りにより調整されている。胎土には石英粒及び粗砂が含まれている。色調は、外面が浅黄橙色～黒褐色、内面が灰白色～ぶい黄褐色を帯びる。体部下半の内面には炭化した付着物が認められる。

## V まとめ

今回の友沼Ⅲ遺跡の発掘調査で検出された遺構は、竪穴住居跡が6棟、落とし穴状遺構が7基、溝状遺構が2基、ピットが13基、配石が1基、炉跡が1基を数えた。また、遺物は、縄文時代及び弥生時代並びに平安時代の土器をはじめ、羽口、石器そして鉄製品が出土したが、量的にはほとんどが遺構内に集中した。

#### 竪穴住居跡

竪穴住居跡は、6棟検出されたが、遺存する全容を把握できたのは第3号及び第4号竪穴住居跡の2棟のみであった。以下に主な特徴をまとめた。

平面形は、隅丸方形もしくは正方形に近い形が考えられる。規模については、床面の一辺の長さによって、3m以下に1棟（第4号竪穴住居跡）、3.3～3.8mの範囲に3棟（第1号～第3号竪穴住居跡）、4m以上に1棟（第6号竪穴住居跡）の分類が可能である（1棟は不明）。主軸方向は、N-37°～61°-Eの範囲内に4棟（第1号～第4号竪穴住居跡）が収まると考えられるのに対し、第5号及び第6号竪穴住居跡は、N-88°-E及びN-76°-Eが主軸方



向の目安となることから、明確な相異を示す。いずれの竪穴住居跡にも貼床は認められなかった。

カマドは、第3号・第4号・第6号竪穴住居跡にて検出された。いずれも東壁の南寄りに構築されている。数個の亜円礫や偏平な礫を据え付けて袖部とし、その上に1個の偏平な礫を渡して天井部とし、燃焼部を形成する(第3号・第4号竪穴住居跡)。煙道は、いずれも所謂くり抜き式によるもので、煙出部は、ほぼ垂直に掘られているが、煙道部から煙出部への移行については、第3号竪穴住居跡の旧設の煙道部及び煙出部のみが段差を有する。

カマドに向かって右脇すなわち南壁との間の床面には楕円形プランの貯蔵穴状ピットが設けられていて、完形あるいは復元可能な土師器及び須恵器が集中して出土した。

周溝は、第3号竪穴住居跡床面の北半分で検出されたのみである。

明確に柱穴として判断されるピットは、第5号・第6号竪穴住居跡の床面から検出されたが、第1号～第4号竪穴住居跡の柱穴は、判然としなかった。

以上、今回の発掘調査で検出された竪穴住居跡は、「岩手県南部を中心とした古代の住居跡の変遷」(相原:1981他)における「第Ⅷ群期以降」(平安時代)に比定される特徴を有している。

竪穴住居跡出土の土器は、特に第3号・第4号・第6号竪穴住居跡においてはカマド脇の貯蔵穴状ピットに集中している。

土師器の器種は、坏がかなりの割合を占めて、すべてロクロ使用であると判断される。切り離しについては、判断できたすべてが回転糸切りによる。各竪穴住居跡の出土数にもよるが、底部の調整は、第6号竪穴住居跡出土の坏に比較的多く認められる。内面が黒色処理されている坏と黒色処理されていない坏の数は、第4号竪穴住居跡出土の坏のみ後者の方が多く、他の竪穴住居跡出土の坏は、前者の方が多い。

高台付坏は、第3号竪穴住居跡からロクロ使用とロクロ不使用の各1点が出土している。

甕でロクロ使用が明らかに認められるのは3点ある。内面が黒色処理されている甕は1点出土している。口縁部は、短くあるいは弱く外反し、体部に叩き目は認められない。

須恵器は、回転糸切り、無調整の坏が1点、第6号竪穴住居跡から出土し、また、外面に格子状叩き具痕、内面に押さえ具痕を有する広口壺が第3号竪穴住居跡から出土している。

以上、竪穴住居跡出土土器の器種及び技法は「岩手県南部における古代の土器編年試案」(相原:1981他)における「第Ⅷ群期」(平安時代初頭～前半頃)あるいは「第Ⅸ群期」(平安時代後半)に、『岩手の土器—県内出土資料の集成』(高橋:1982)においては「古代・Ⅲ-2群」(9世紀末から10世紀代)に比定される特徴を有している。

鉄製品は、29点出土しており、内訳は、刀子7点、鐵3点、釘1点、鉄具1点、器種不明15点となっている。鉄具については、久慈市中長内遺跡、江刺市宮地遺跡、江釣子村五条丸古墳、二戸市上田面遺跡などから出土しており、中でも、大きさ・形状ともに中長内遺跡出土の鉄器

と良く似ている。

「器種不明」に含まれている「U」字状の鉄製品(21・22)は、宮地遺跡出土の鉄製品(用途不明)に類似する。毛抜のように先端が幅広くはない。また、盛岡市志波城跡、二戸市長瀬C遺跡、江刺市力石II遺跡などから出土している「攝子」は、音叉金具状で把手部を有している点で形状を異にする。

同じく「器種不明」に含まれている95は、二戸市駒焼場遺跡出土の用途不明鉄製品に類似する。駒焼場遺跡出土の鉄製品は、身に筒状のものを左右につけ、ねじれた頸部から茎に至り、先は細く鋭くなるのに対し、95は、細長い板状で、ねじれてはいない。また、筒状の鉄製品については、94が95と同じレベルで北北西へ2.4m離れた第6号竪穴住居跡の床面から出土しているが、両者の関係については不明である。

#### 落とし穴状遺構

落とし穴状遺構は、7基検出された。開口部の長軸長と短軸長の比は、第1号～第4号落とし穴状遺構で3:1以上に長軸が長く、第5号落とし穴状遺構はこの比に近い。第6号・第7号落とし穴状遺構は、2:1前後である。長軸長が2mに満たないのは第6号・第7号落とし穴状遺構のみである。また、短軸と深さを比較すると、第5号・第7号落とし穴状遺構は短軸の方が長い。

長軸断面形は、第1号～第3号落とし穴状遺構がフラスコ状を呈し、第7号落とし穴状遺構もフラスコ状に近い形であるが、底部に小ピットの列が検出された。第4号落とし穴状遺構の長軸断面形は、開口部からほぼ垂直に底部へ至り、第5号・第6号落とし穴状遺構は、逆台形を呈する。

長軸方向は、N(S) -14~54° -W(E)の範囲内に収まり、第3号・第6号・第7号落とし穴状遺構がN(S) -54° -W(E)に近い。おおむね等高線に沿う状態で検出されているが、全体としては一定の配列は認められない。

落とし穴状遺構からは遺物が出土していないため、所属時期の把握はできなかったが、第1号落とし穴状遺構と第6号竪穴住居跡との重複関係や埋土状況から、竪穴状況とは同一時期ではなく、むしろ竪穴住居跡よりも古い時期に属する遺構と考えられる。

#### 遺構外出土土器

胎土に繊維を含む土器の文様としては、ループ文、羽状縄文、斜行縄文があり、コンパス文、竹管文、沈線文、燃糸側面瓦痕文は認められない。ループ文には、山形の展開と横位の展開とがある。山形の展開を示す土器片の中には口縁部の破片がないため、山形の展開と口縁形状との関係を知ることができない。ループ文の山形の展開は、田老町小堀内I遺跡、千坂町松倉遺跡の例(縄文時代前期初頭)に類似するモチーフである。口縁部の破片に認められるループ文

は、すべて横位に展開している。しかし、胴部の破片がないため、ループ文が口縁部に集中しているのか否かは判然としない。口縁断面形については、内削ぎみの破片が1点あるものの全体として明確な調整は認められない。口縁部においてループ文が横位に展開するモチーフは、本市牧田貝塚、小堀内Ⅰ遺跡、松倉遺跡、宮城県三神峯遺跡、同県中峯遺跡出土土器に類例(縄文時代前期初頭)を求めることができる。

羽状縄文の認められる土器片には、口縁部の破片は含まれていない。結束のない羽状縄文がほとんどで、結束のある羽状縄文は2点のみである。

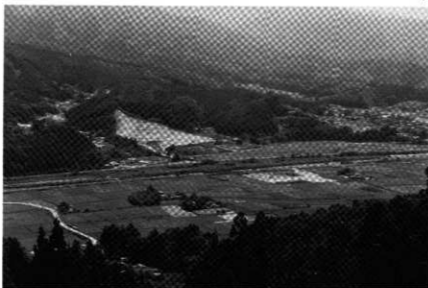
斜行縄文の土器片には、口縁部の破片が3点ある。いずれも平縁で、口唇部の調整、施文は認められないが、うち1点の斜行縄文には、結束がある。

斜行縄文を沈線で区画し、磨り消しを行なった土器片は、縄文時代中期中葉～末葉(大木8b式～大木10式期)に比定される。

弥生式土器については、中沢浜貝塚第Ⅴ群土器、田柄貝塚Ⅹ群土器、湯舟Ⅰ類土器、君成田Ⅳ遺跡第4群3類、馬場野Ⅱ遺跡第Ⅸ群土器、谷起島A類土器に類例を求めることができ、「岩手の弥生式土器編年試論」(小田野：1987)における「Ⅰ期」に比定されると考えられる。

## 引用参考文献

- 阿部 恵・手塚 均・相原淳一 他『田柄貝塚』(宮城県文化財調査報告書第111集 宮城県教育委員会 1986年)  
古澤康治・佐藤剛文『三神峯遺跡発掘調査報告書』(仙台市文化財調査報告書第25集 仙台市教育委員会 1980年)  
及川 尚・遠藤勝博・及川千代松『牧田貝塚発掘調査概要』(陸前高田市教育委員会 1971年)  
大原一則『小堀内Ⅰ遺跡発掘調査報告書』(岩手県埋文センター文化財調査報告書第52集 岩手県埋文センター 1983年)  
小田野哲憲『岩手の弥生式土器編年試論』(『岩手県立博物館研究報告』第5号 岩手県立博物館 1987年)  
面代民義・千葉哲蔵『中長内遺跡』(久慈市埋文文化財発掘調査報告書第8集 久慈市教育委員会 1988年)  
狩野敏雄『鈴ヶ沢遺跡』(『東北縦貫自動車道関係埋文文化財調査報告書-V』) (岩手県文化財調査報告書第54集 岩手県教育委員会 1980年)  
桐生正一・桜井芳彦・後藤裕子『湯舟Ⅰ遺跡』(滝沢村文化財調査報告書第2集 滝沢村教育委員会・岩手県文化振興事業団埋文文化財センター 1986年)  
工藤利幸・中川重紀・田村壮一『馬場野Ⅱ遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋文文化財調査報告書第99集 岩手県文化振興事業団埋文文化財センター 1986年)  
熊谷常正『岩手県における縄文時代前期土器群の成立』(『岩手県立博物館研究報告』第1号 岩手県立博物館 1983年)  
嶋 千秋・朴次正樹・佐々木勝『東北新幹線関係埋文文化財調査報告書-Ⅳ-』(岩手県文化財調査報告書第48集 岩手県教育委員会 1980年)  
嶋 千秋・村上達夫・高橋義介・遠藤勝博『君成田Ⅳ遺跡発掘調査報告書』(岩手県埋文センター文化財調査報告書第62集 岩手県埋文文化財センター 1983年)  
高橋信雄・小田野哲憲・熊谷常正『岩手の土器』(岩手県立博物館 1982年)  
高橋信雄・山口紀・三浦謙一『力石Ⅱ遺跡』(『主要地方道一関・北上線関連遺跡発掘調査報告書』岩手県埋文センター文化財調査報告書第8集 岩手県埋文文化財センター 1979年)  
高橋義介『岩手県における奈良・平安時代出土の鉄製品について』(『紀要』Ⅳ 岩手県埋文文化財センター 1984年)  
中村良一・光井文行『駒境遺跡発掘調査報告書』(岩手県文化振興事業団埋文文化財調査報告書第133集 岩手県文化振興事業団埋文文化財センター 1989年)  
林 謙作・小田野哲憲『谷起島遺跡第一次発掘調査報告書』(一関市教育委員会 1977年)  
吉田 努・相原康二・狩野敏雄『東北縦貫自動車道関係埋文文化財調査報告書-XI-』(岩手県文化財調査報告書第60集 岩手県教育委員会 1981年)  
吉田 勉・尾野 靖・八重樫良宏『東北縦貫自動車道関係埋文文化財調査報告書-XII-』(岩手県文化財調査報告書第68集 岩手県教育委員会 1982年)

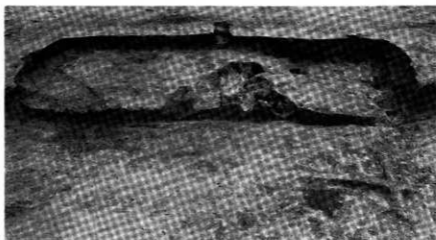


遺跡遠景 (西北西より)

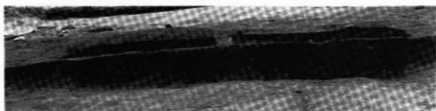


調査区全景 (西南西より)

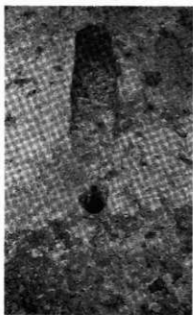
図版 2



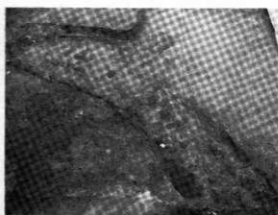
第1号竪穴住居跡 (南より)



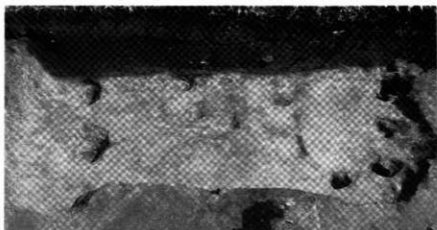
第1号竪穴住居跡埋土断面 (南より)



第1号竪穴住居跡煙道 (西より)



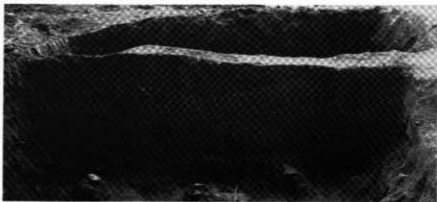
第3号溝状遺構 (南より)



第2号竪穴住居跡（北より）

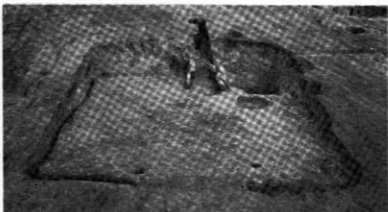


第2号竪穴住居跡埋土断面（北より）

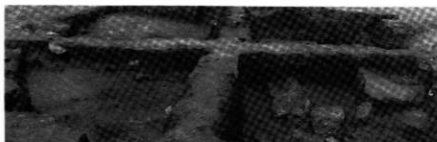


第2号竪穴住居跡埋土断面（東より）

図版 4



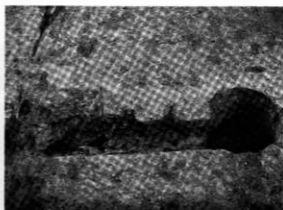
第3号竪穴住居跡（西より）



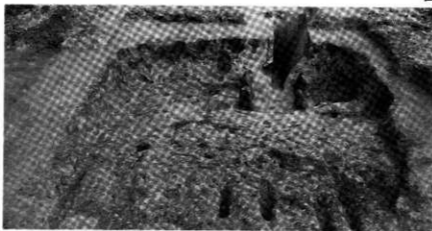
第3号竪穴住居跡埋土断面（西より）



第3号竪穴住居跡カマド（西より）



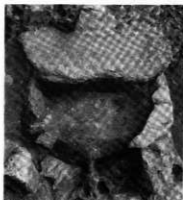
第3号竪穴住居跡煙道（南より）



第4号竪穴住居跡（西より）



第4号竪穴住居跡埋土断面（南より）



第4号竪穴住居跡カマド（西より）



第4号竪穴住居跡煙道（南より）



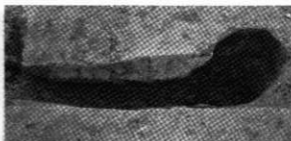
図版 6



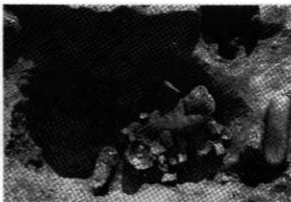
第5号・6号竪穴住居跡（南より）



第6号竪穴住居跡カマド（西より）



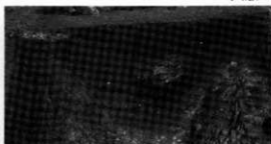
第6号竪穴住居跡（南より）



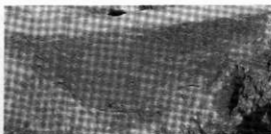
第6号竪穴住居跡貯蔵穴状ビット（北より）



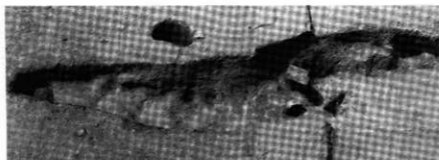
第1号溝状遺構（北より）



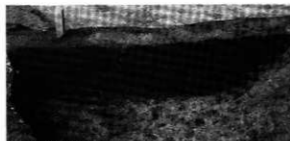
第1号溝状遺構埋土断面1（南より）



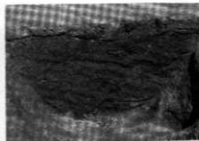
第1号溝状遺構埋土断面2（南より）



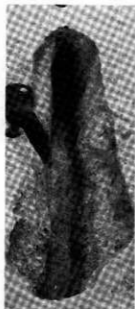
第2号溝状遺構（東より）



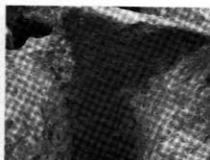
第2号溝状遺構埋土断面1（南より）



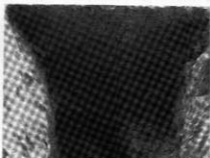
第2号溝状遺構埋土断面2（南より）



第1号落とし穴状遺構  
(D12-1ピット) (北より)



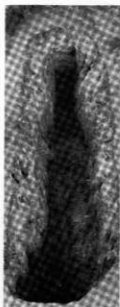
第1号落とし穴状遺構埋土断面 (北より)



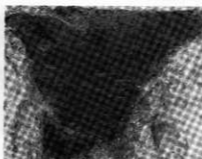
第2号落とし穴状遺構埋土断面  
(北より)



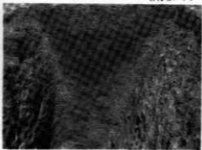
第2号落とし穴状遺構  
(F2-1ピット) (北より)



第3号落とし穴状遺構  
(南より)  
(E3-2ピット)



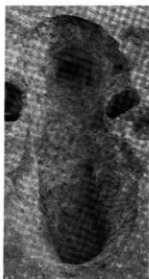
第3号落とし穴状遺構埋土断面  
(南より)



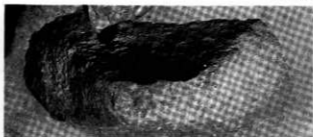
第4号落とし穴状遺構埋土断面  
(南より)



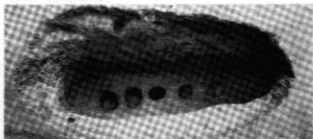
第4号落とし穴状遺構 (南より)  
(F5-1ピット)



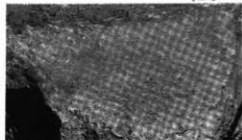
第5号落とし穴状遺構（北より）  
（F12-7ピット）



第6号落とし穴状遺構（西より）  
（G1-2ピット）



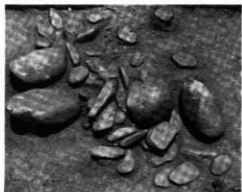
第7号落とし穴状遺構（東より）  
（E5-1ピット）



第5号落とし穴状遺構埋土断面（南より）



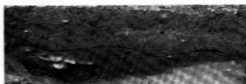
第7号落とし穴状埋土断面（北より）



配石（北より）

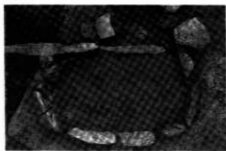


第6号落とし穴状埋土断面（北より）

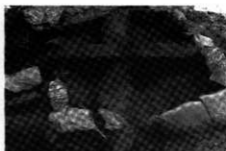


配石埋土断面（北より）

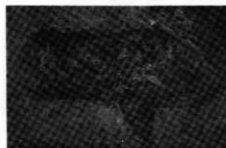
図版10



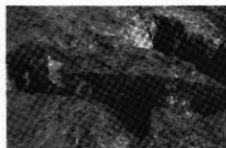
炉跡 (北より)



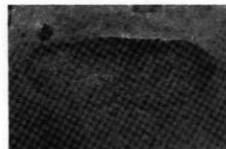
炉跡埋土断面 (東より)



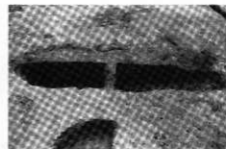
D15-1ピット (西より)



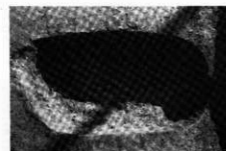
D15-1ピット埋土断面 (西より)



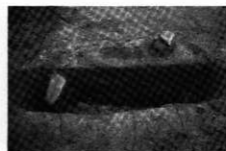
D6-1ピット (西より)



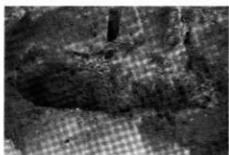
D6-1ピット埋土断面 (東より)



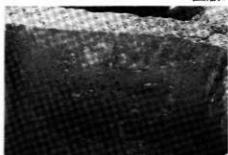
G2-2ピット (北より)



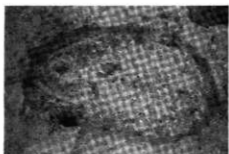
G2-2ピット埋土断面 (南より)



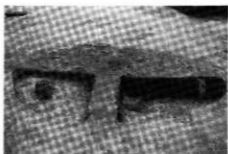
G3-1ピット (西より)



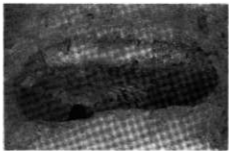
G3-1ピット埋土断面 (北より)



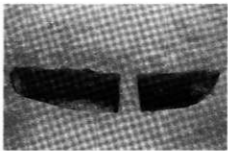
G3-2ピット (北より)



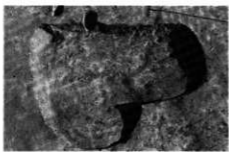
G3-2ピット埋土断面 (北より)



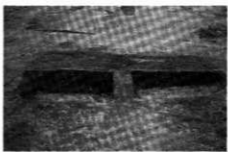
G4-2ピット (西より)



G4-2ピット埋土断面 (東より)



G10-1ピット・G10-2ピット (西より)



G10-1ピット・G10-2ピット埋土断面  
(西より)

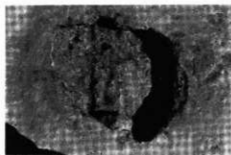
図版12



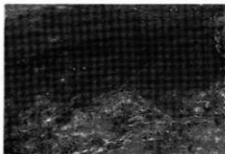
C11-1ピット (西より)



C11-1ピット埋立断面 (南より)



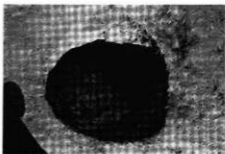
C11-2ピット (西より)



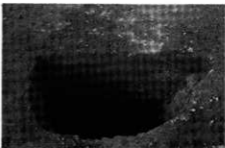
C11-2ピット埋立断面 (南より)



E11-1ピット・E11-2ピット・E10-1ピット・  
E10-2ピット・E10-3ピット (北より)



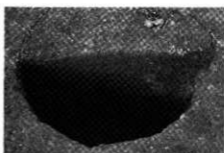
E11-1ピット (西より)



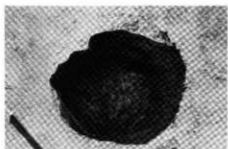
E11-1ピット埋立断面 (南より)



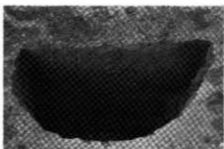
E11-2ピット (西より)



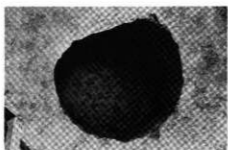
E11-2ピット埋土断面 (南より)



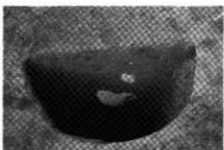
E10-1ピット (西より)



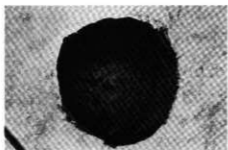
E10-1ピット埋土断面 (南より)



E10-2ピット (西より)



E10-2ピット埋土断面 (南より)



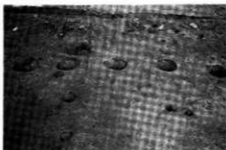
E10-3ピット (西より)



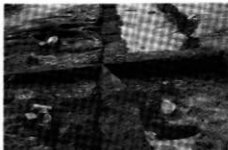
E10-3ピット埋土断面 (南より)



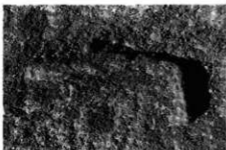
図版14



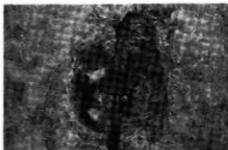
E11-1ピット・E11-2ピット・E10-1ピット・  
E10-2ピット・E10-3ピット (西より)



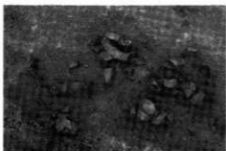
D10区・E10区埋土断面 (南より)



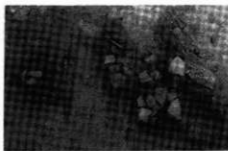
遺物出土状況



遺物出土状況



遺構外出土遺物出土状況



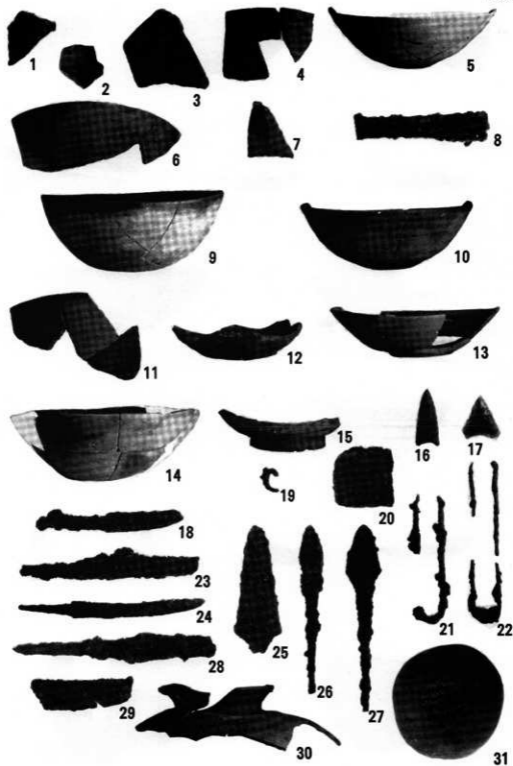
遺構外出土遺物出土状況



作業風景



作業風景



第2号(1~8)・第3号(9~31) 堅穴住居跡出土遺物



32



33



34



35



36



37



38



39



40



41



42



43



44



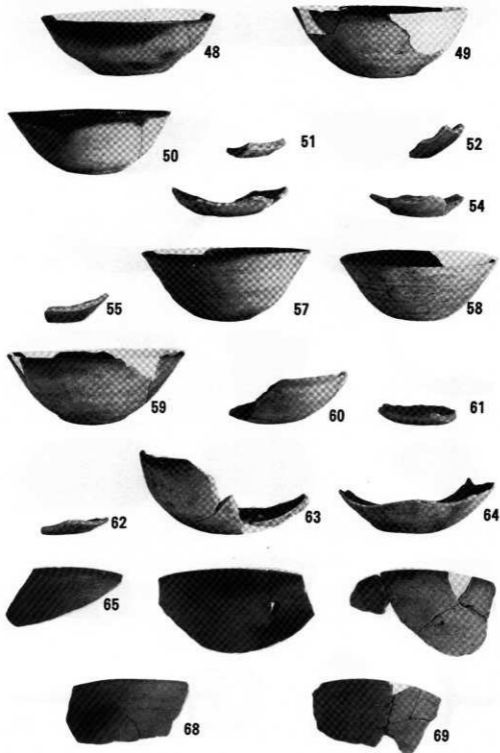
45



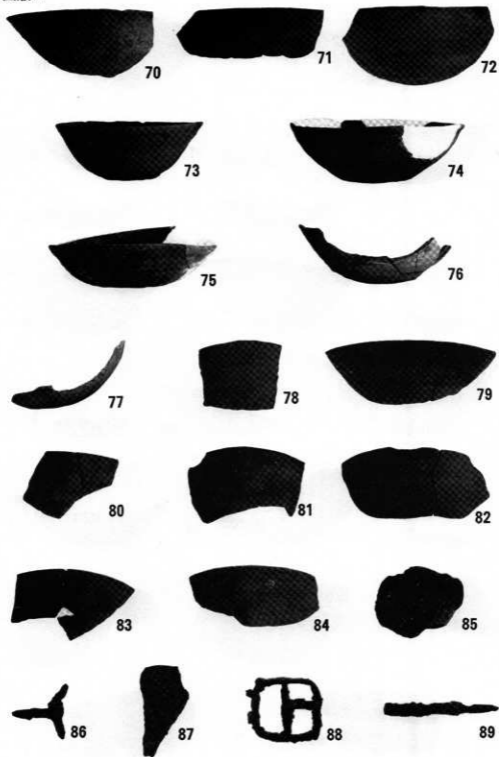
46

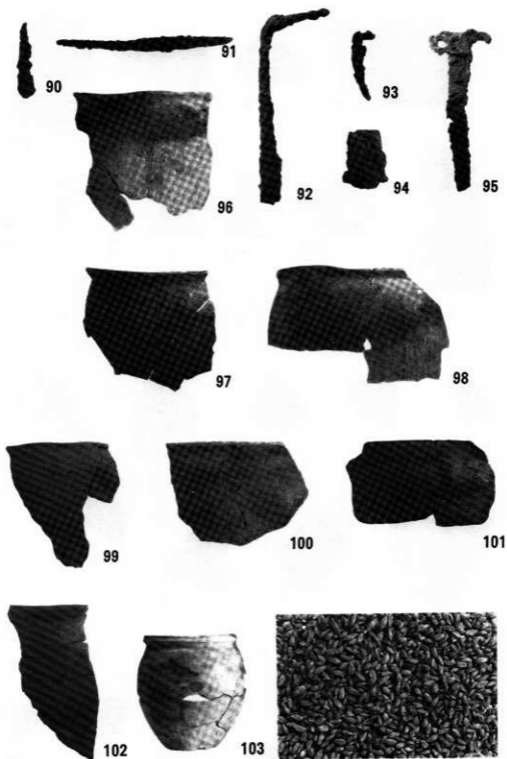


47

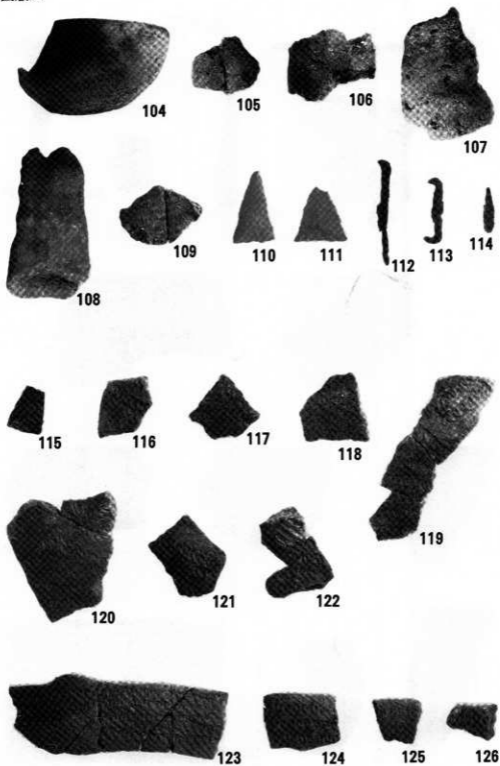


第5号・6号竪穴住居跡出土遺物

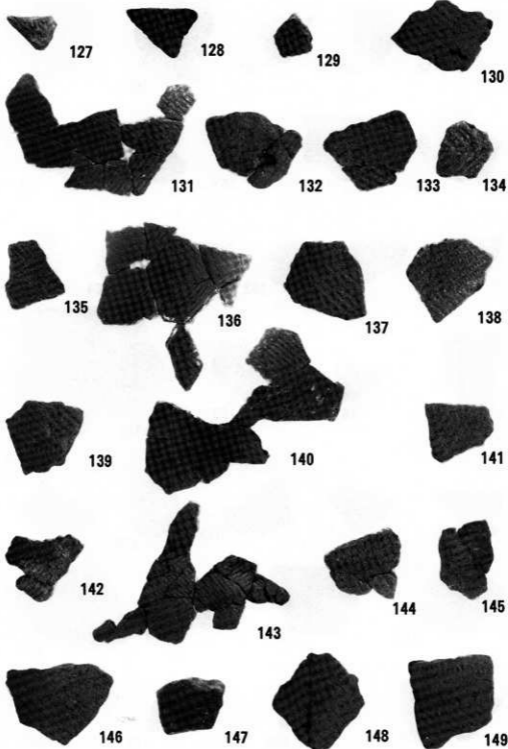




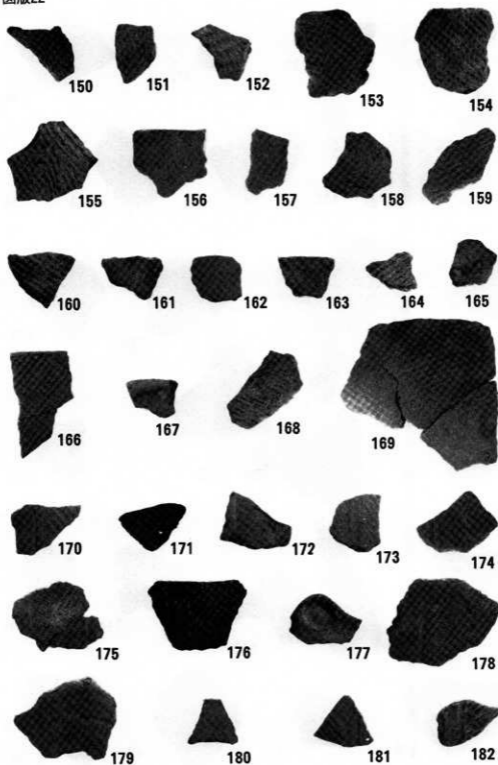
第5号·6号竖穴住居跡出土遺物

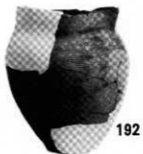
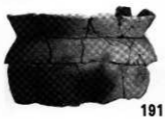


遺構 (104~114)・遺構外 (115・126) 出土遺物









图版24



---

陸前高田市文化財調査報告書第14集

友 沼 III 遺 跡

1990（平成2）年3月発行

編集・発行 陸前高田市教育委員会  
岩手県陸前高田市高田町字館の沖110  
TEL 0192-54-2111

印 刷 ㈱高田活版  
岩手県陸前高田市高田町字馬場前114  
TEL 0192-55-2694

---

